



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(令和3年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	令和2年12月	令和3年3月	前回調査比
茨城県	41.4	46.1	+4.7
県北地域	44.9	40.6	△4.3
県央地域	38.8	50.4	+11.6
鹿行地域	44.9	42.7	△2.2
県南地域	39.7	52.2	+12.5
県西地域	38.7	44.4	+5.7

《景気の先行き判断DI》

	令和2年12月	令和3年3月	前回調査比
茨城県	38.0	52.7	+14.7
県北地域	36.1	46.9	+10.8
県央地域	39.7	58.9	+19.2
鹿行地域	37.7	53.4	+15.7
県南地域	38.4	53.6	+15.2
県西地域	38.2	50.5	+12.3

令和3年4月

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	（1）景気の現状判断D I	3
	（2）景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	（1）景気の現状判断D I	5
	（2）景気の先行き判断D I	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問い合わせ先
茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632
公式サイトのURL
<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	36	36	36	184
企業関連	製造業、建設業、金融業等	19	16	19	19	19	92
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	280 人	93.3%
県北地域	60 人	56 人	93.3%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	58 人	96.7%
県南地域	60 人	56 人	93.3%
県西地域	60 人	54 人	90.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和3年3月調査の調査期間は、令和3年3月5日から20日までである。

6 利用上の注意

- (1) D I (Diffusion Index) は景気の方性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とされない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方性をみるための指標 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、D I 値は、
(1点×15.0%) + (0.75点×27.0%) + (0.5点×25.0%) + (0.25点×11.0%)
+ (0点×22.0%) = 50.5となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気の下
降局面にあるといえる。

II 調査結果の概要

1 全県の動向

(1)景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは46.1となった。令和2年12月調査（以下「前回調査」という。）より4.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を10期連続で下回った。

表1-1 景気の現状判断DI

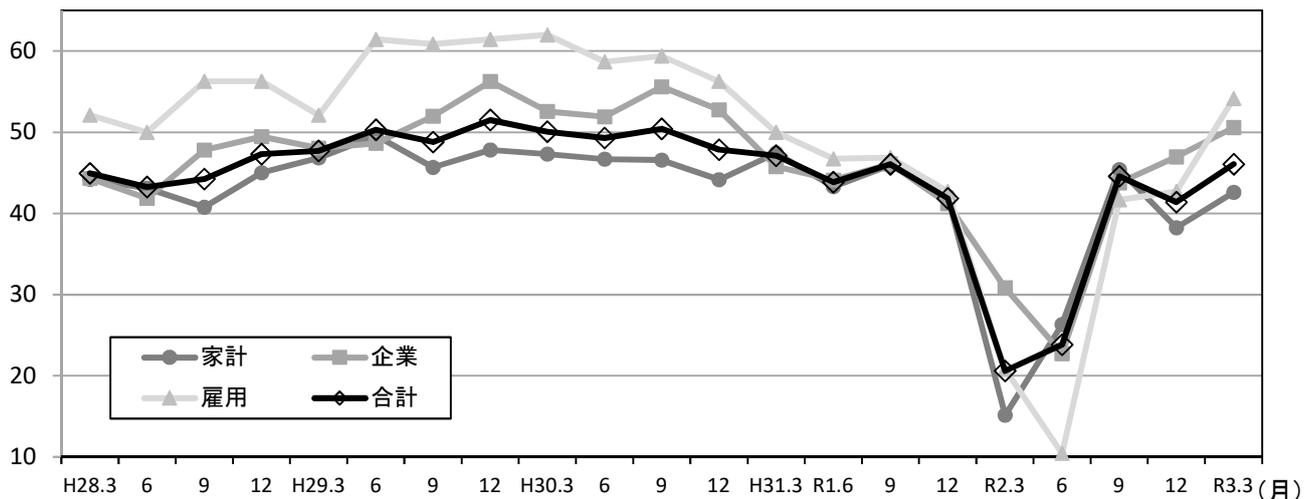
分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		20.6	23.8	44.6	41.4	46.1
家計動向関連		15.1	26.3	45.4	38.2	42.6
小売関連		20.5	35.2	42.1	42.9	41.7
飲食関連		16.7	17.5	47.4	31.0	28.9
サービス関連		9.0	19.7	49.0	36.8	45.9
住宅関連		25.0	39.3	35.7	31.3	53.1
企業動向関連		30.8	22.8	43.8	46.9	50.6
農林水産業		42.9	21.4	33.3	37.5	50.0
製造業		29.1	24.0	47.4	48.5	51.6
非製造業		30.9	21.3	40.4	46.4	49.2
雇用関連		20.8	10.4	41.7	42.7	54.2

表1-2 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	1.8%	3.2%	3.2%	5.3%	2.1%
やや良くなっている	4.6%	12.5%	26.7%	16.7%	26.1%
変わらない	14.8%	11.4%	29.9%	30.9%	38.6%
やや悪くなっている	32.0%	22.4%	25.6%	32.6%	20.4%
悪くなっている	46.8%	50.5%	14.6%	14.5%	12.9%

図1-1 景気の現状判断DIの推移

(DI)



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは52.7となった。前回調査より14.7ポイント上昇し、横ばいを表す50を10期ぶりに上回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

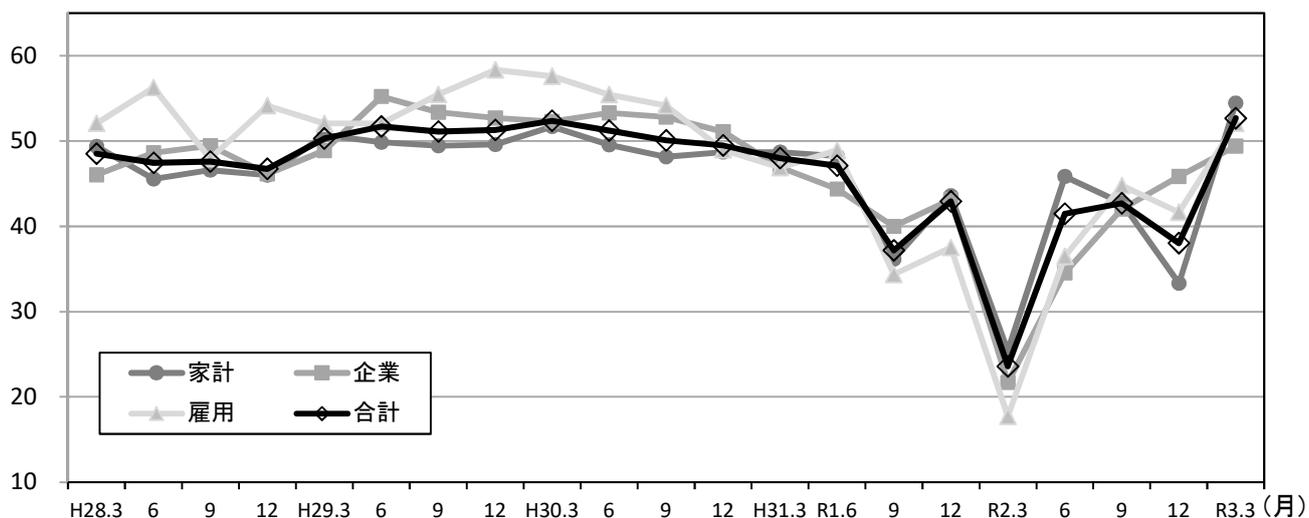
分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		23.6	41.5	42.7	38.0	52.7
家計動向関連		25.4	45.8	42.8	33.3	54.4
小売関連		20.8	43.6	41.8	35.4	51.4
飲食関連		40.5	57.5	44.7	28.6	55.3
サービス関連		26.3	45.7	44.5	31.9	57.2
住宅関連		15.6	35.7	28.6	40.6	53.1
企業動向関連		21.7	34.6	42.0	45.8	49.4
農林水産業		35.7	35.7	37.5	50.0	53.6
製造業		20.9	38.5	43.8	47.4	46.8
非製造業		19.9	28.7	40.4	42.9	52.3
雇用関連		17.7	36.5	44.8	41.7	52.1

表1-4 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	0.7%	2.8%	2.5%	1.1%	4.3%
やや良くなっている	11.6%	26.3%	17.1%	12.4%	29.6%
変わらない	14.8%	27.8%	42.7%	40.8%	45.0%
やや悪くなっている	27.1%	19.9%	24.2%	29.1%	14.6%
悪くなっている	45.8%	23.1%	13.5%	16.7%	6.4%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移

(DI)



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは40.6となった。前回調査より4.3ポイント低下して、横ばいを表す50を10期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		20.6	24.6	43.3	44.9	40.6
	家計動向関連	16.9	22.9	46.3	42.7	40.9
	企業動向関連	27.6	28.9	40.3	51.3	40.8
	雇用関連	18.8	18.8	31.3	31.3	37.5

表2-2 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	0.0%	3.4%	3.6%	7.4%	1.8%
やや良くなっている	8.8%	13.6%	28.6%	22.2%	16.1%
変わらない	14.0%	8.5%	23.2%	24.1%	41.1%
やや悪くなっている	28.1%	27.1%	26.8%	35.2%	25.0%
悪くなっている	49.1%	47.5%	17.9%	11.1%	16.1%

② 県央地域

景気の現状判断DIは50.4となった。前回調査より11.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を6期ぶりに上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		18.5	16.8	45.6	38.8	50.4
	家計動向関連	10.1	21.4	50.0	38.8	52.1
	企業動向関連	35.9	6.7	41.7	45.0	51.7
	雇用関連	25.0	15.0	25.0	20.0	35.0

表2-4 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	3.4%	3.6%	3.5%	5.2%	3.6%
やや良くなっている	5.2%	9.1%	29.8%	15.5%	30.4%
変わらない	8.6%	3.6%	31.6%	25.9%	42.9%
やや悪くなっている	27.6%	18.2%	15.8%	36.2%	10.7%
悪くなっている	55.2%	65.5%	19.3%	17.2%	12.5%

③ 鹿行地域

景気の現状判断D Iは42.7となった。前回調査より2.2ポイント低下して、横ばいを表す50を11期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		22.4	24.6	45.6	44.9	42.7
	家計動向関連	20.5	30.9	47.1	42.9	35.0
	企業動向関連	27.6	18.4	45.8	47.4	54.2
	雇用関連	15.0	5.0	35.0	50.0	55.0

表2-6 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	1.8%	3.4%	1.8%	3.4%	0.0%
やや良くなっている	3.5%	12.1%	26.3%	18.6%	22.4%
変わらない	15.8%	12.1%	29.8%	37.3%	37.9%
やや悪くなっている	40.4%	24.1%	36.8%	35.6%	27.6%
悪くなっている	38.6%	48.3%	5.3%	5.1%	12.1%

② 県南地域

景気の現状判断D Iは52.2となった。前回調査より12.5ポイント上昇して、横ばいを表す50を8期ぶりに上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		20.9	26.4	42.5	39.7	52.2
	家計動向関連	14.8	28.2	39.4	34.6	48.5
	企業動向関連	30.6	27.9	46.1	46.1	54.2
	雇用関連	25.0	10.0	50.0	50.0	70.0

表2-8 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	1.8%	3.8%	3.5%	6.9%	5.4%
やや良くなっている	3.6%	9.4%	24.6%	10.3%	30.4%
変わらない	16.4%	18.9%	28.1%	34.5%	42.9%
やや悪くなっている	32.7%	24.5%	26.3%	31.0%	10.7%
悪くなっている	45.5%	43.4%	17.5%	17.2%	10.7%

③ 県西地域

景気の現状判断DIは44.4となった。前回調査より5.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を28期連続で下回った。

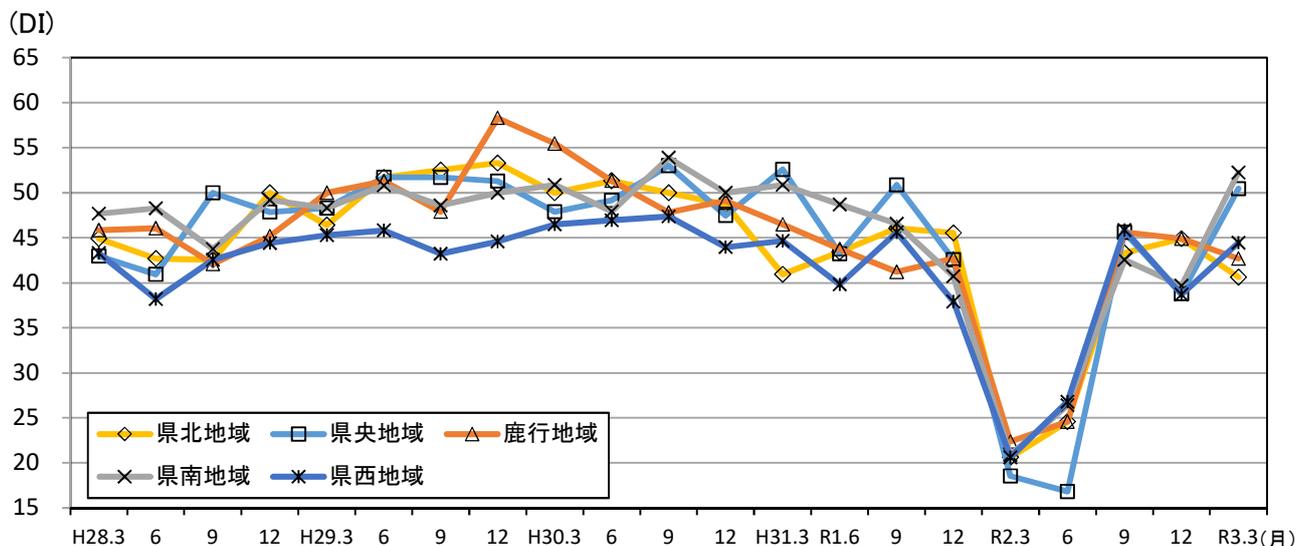
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		20.6	26.8	45.8	38.7	44.4
家計動向関連		14.0	28.9	43.5	31.7	35.9
企業動向関連		33.3	28.9	44.4	44.4	52.9
雇用関連		20.0	5.0	65.0	60.0	70.0

表2-10 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	1.8%	1.8%	3.7%	3.8%	0.0%
やや良くなっている	1.8%	17.9%	24.1%	17.0%	31.5%
変わらない	19.3%	14.3%	37.0%	32.1%	27.8%
やや悪くなっている	31.6%	17.9%	22.2%	24.5%	27.8%
悪くなっている	45.6%	48.2%	13.0%	22.6%	13.0%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	H28.3	H28.6	H28.9	H28.12	H29.3	H29.6	H29.9	H29.12	H30.3	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3月
県全体	44.9	43.3	44.2	47.3	47.7	50.3	48.8	51.5	50.1	49.3	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1
県北	44.9	42.7	42.5	50.0	46.4	51.7	52.5	53.3	50.0	51.3	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8
県央	43.0	40.9	50.0	47.8	48.3	51.7	51.7	51.3	47.9	49.2	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5
鹿行	45.8	46.1	42.1	45.2	50.0	51.3	47.9	58.3	55.5	51.3	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7
県南	47.7	48.3	43.8	49.2	48.3	50.8	48.6	50.0	50.9	47.9	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2
県西	43.3	38.2	42.5	44.4	45.3	45.8	43.2	44.6	46.5	46.9	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4
全国	43.3 45.4	42.3 41.2	45.9 44.8	49.3 51.2	48.9 50.6	51.2 49.9	50.3 49.6	51.8 53.9	50.2 51.7	49.8 48.2	47.1 47.3	45.5 48.2	45.5 46.7	45.1 43.3	44.9 45.7	38.3 40.7	14.9 15.9	40.0 38.0	47.8 48.7	34.3 36.5	49.0(季節調整値) 49.5(原数値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

景気の先行き判断DIは46.9となった。前回調査より10.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を9期連続で下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		23.7	38.1	40.2	36.1	46.9
	家計動向関連	27.2	40.3	38.2	31.5	50.8
	企業動向関連	17.1	34.2	43.1	44.7	40.8
	雇用関連	25.0	37.5	43.8	31.3	43.8

表2-12 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	0.0%	3.4%	1.8%	3.7%	0.0%
やや良くなっている	10.5%	20.3%	10.7%	9.3%	28.6%
変わらない	17.5%	28.8%	42.9%	35.2%	39.3%
やや悪くなっている	28.1%	20.3%	35.7%	31.5%	23.2%
悪くなっている	43.9%	27.1%	8.9%	20.4%	8.9%

② 県央地域

景気の先行き判断DIは58.9となった。前回調査より19.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を8期ぶりに上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		24.6	45.5	46.1	39.7	58.9
	家計動向関連	25.0	56.4	50.0	38.8	64.6
	企業動向関連	25.0	25.0	40.0	45.0	53.3
	雇用関連	20.0	30.0	35.0	30.0	35.0

表2-14 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	3.4%	5.5%	0.0%	0.0%	1.8%
やや良くなっている	12.1%	32.7%	29.8%	17.2%	46.4%
変わらない	12.1%	25.5%	38.6%	41.4%	41.1%
やや悪くなっている	24.1%	10.9%	17.5%	24.1%	7.1%
悪くなっている	48.3%	25.5%	14.0%	17.2%	3.6%

③ 鹿行地域

景気の先行き判断D Iは53.4となった。前回調査より15.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を10期ぶりに上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		20.2	37.5	46.1	37.7	53.4
	家計動向関連	22.0	41.9	44.9	31.4	51.4
	企業動向関連	19.7	32.9	48.6	46.1	56.9
	雇用関連	10.0	25.0	45.0	50.0	55.0

表2-16 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	3.4%
やや良くなっている	8.8%	22.4%	15.8%	15.3%	25.9%
変わらない	12.3%	27.6%	49.1%	37.3%	51.7%
やや悪くなっている	29.8%	27.6%	24.6%	30.5%	19.0%
悪くなっている	49.1%	22.4%	7.0%	16.9%	0.0%

② 県南地域

景気の先行き判断D Iは53.6となった。前回調査より15.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を10期ぶりに上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		23.2	42.5	39.5	38.4	53.6
	家計動向関連	26.6	45.2	37.9	34.6	53.8
	企業動向関連	18.1	36.8	38.2	44.7	50.0
	雇用関連	20.0	45.0	55.0	40.0	65.0

表2-18 回答構成比

	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	0.0%	5.7%	5.3%	1.7%	10.7%
やや良くなっている	12.7%	26.4%	15.8%	6.9%	23.2%
変わらない	10.9%	26.4%	35.1%	44.8%	42.9%
やや悪くなっている	32.7%	15.1%	19.3%	36.2%	16.1%
悪くなっている	43.6%	26.4%	24.6%	10.3%	7.1%

③ 県西地域

景気の先行き判断D Iは50.5となった。前回調査より12.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を11期ぶりに上回った。

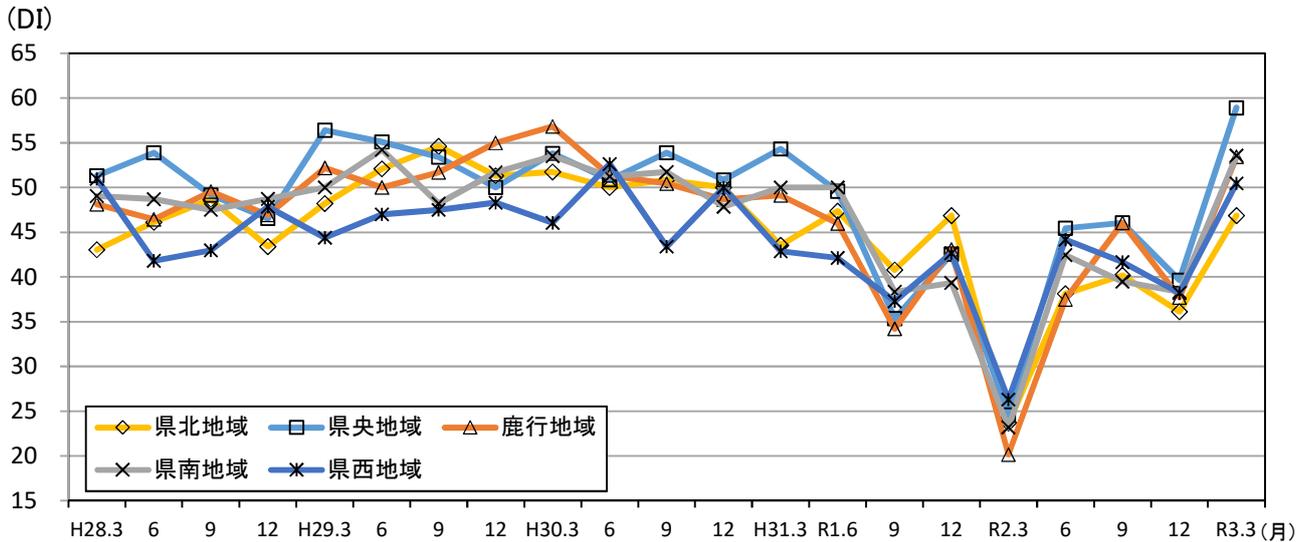
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計		26.3	44.2	41.7	38.2	50.5
家計動向関連		26.5	45.3	41.9	29.2	50.8
企業動向関連		29.2	42.1	40.3	48.6	47.1
雇用関連		15.0	45.0	45.0	55.0	60.0

表2-20 回答構成比

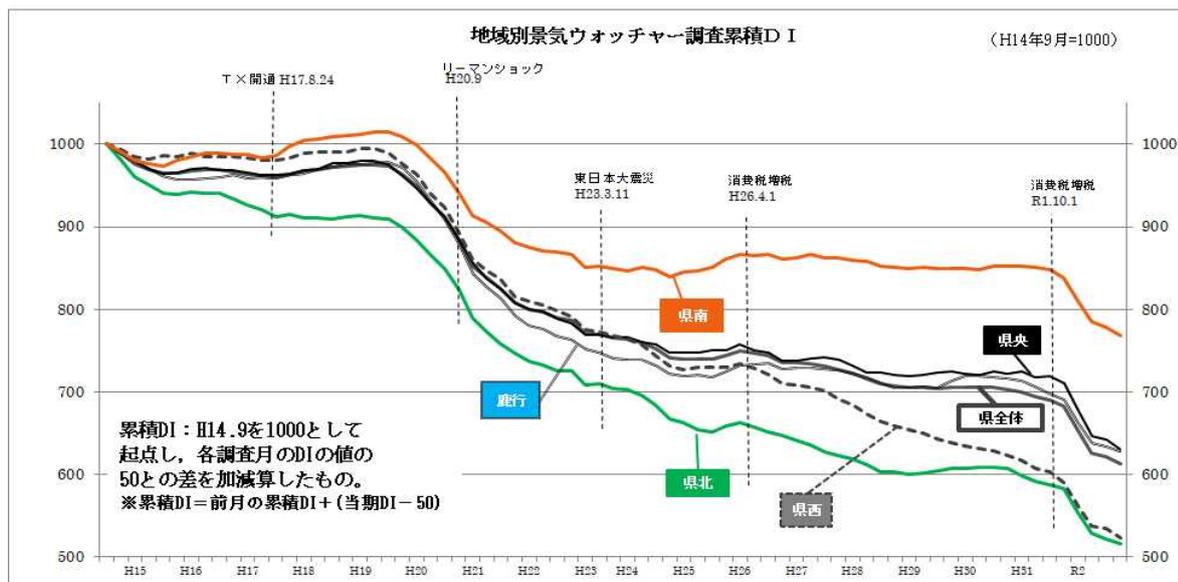
	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
良くなっている	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	5.6%
やや良くなっている	14.0%	30.4%	13.0%	13.2%	24.1%
変わらない	21.1%	30.4%	48.1%	45.3%	50.0%
やや悪くなっている	21.1%	25.0%	24.1%	22.6%	7.4%
悪くなっている	43.9%	14.3%	13.0%	18.9%	13.0%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	H28.3	H28.6	H28.9	H28.12	H29.3	H29.6	H29.9	H29.12	H30.3	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3月
県全体	48.5	47.5	47.6	46.7	50.3	51.7	51.1	51.3	52.4	51.2	50.1	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7
県北	43.1	46.1	48.7	43.4	48.2	52.1	54.6	51.3	51.8	50.0	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4
県央	51.3	53.9	49.2	46.6	56.4	55.1	53.4	50.0	53.8	50.8	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6
鹿行	48.1	46.4	49.6	46.9	52.2	50.0	51.7	55.0	56.8	51.3	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2	43.1	20.2	37.5	46.1	37.7	53.4
県南	49.1	48.7	47.5	48.8	50.0	54.2	48.2	51.7	53.5	51.3	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6
県西	51.0	41.8	43.0	47.8	44.4	47.0	47.5	48.3	46.1	52.6	43.4	50.0	42.9	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5
全国	46.6	40.7	49.4	49.8	49.3	50.8	51.0	51.8	50.7	50.5	51.1	47.3	48.9	46.0	36.8	44.6	19.8	44.6	47.1	36.1	49.8(季節調整値)
	46.7	41.5	48.5	49.0	49.0	51.5	50.4	51.3	50.1	50.9	50.7	47.0	47.9	46.3	36.7	44.5	18.7	44.8	47.1	36.1	48.6(原数値)

(参考) 地域別累積DI



III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	住宅販売会社	新型コロナウイルスが落ち着きだして人の動きが戻ったことと、土地購入意欲が上がってきたことで良くなっている。これらは、今後住宅金利が上がる可能性があることが要因である。
		小売業 (弁当・惣菜店)	以前ほどではないにしろ、人の流れが出てきたような肌感覚がある。
		ラーメン店	2月下旬頃から客の動きが良くなっている。
		観光型ホテル	少しずつ、人出が増えている。
やや良くなっている	家計	タクシー運転手	県の緊急事態宣言解除後、人の動きが少しは多くなったように思う。
		レジャー施設	茨城県の緊急事態宣言が解除され、休業していた諸施設を感染防止策を施しながら一部制限して開業している。その結果、利用者数が従来の利用者数に戻りつつある。
		林業関係者	コロナ禍ではあるが活発な取引がされている。生産量の確保に意欲的である。
		製造業 (化学工業)	海外向けの輸出や国内の中食等の需要が回復している。
変わらない	企業	製造業 (輸送用機械器具)	米州及び日本の自動車市場は緩やかな回復、中国市場は力強い回復となってきた。また、新型コロナウイルスの影響により大幅な売上げ減少、収益は大幅下方修正とはなっているが、第3四半期でみれば、大幅に回復基調にあり、特に欧州及び中国を中心としたモータ、インバータ等の主力電動化製品の受注が堅調に継続。
		製造業 (精密機器)	引き合いが増えている。
		商店街代表者	成人式中止の影響が薄れてきた。
		スーパー	客数や売上げもそう変わっていない。
変わらない	家計	スーパー	売上げでは、前年は新型コロナウイルスの影響があつて2月、3月は増加していたが、今年は平年並みとなっている。
		衣料品販売店	依然として低迷している。
		小売業 (燃料)	売上高等、低調である。3か月前と比べればずっと悪いとしかいえない。
		小売業 (水産物)	新型コロナウイルスの影響なのか自社の販売努力が低いのか不明だが、客数が伸びない。安価な商品の購入が目立つ。
		観光型ホテル	緊急事態宣言が発令されGoToトラベルも12月28日から停止となりキャンセルが増え、また、年始年末にも空室が多く売上げも例年の30%未満と厳しい状況だった。茨城県独自の緊急事態宣言発令に伴い、当館も1月18日から2月7日まで休館になり、売上げもかなり低下し、前代未聞の売上げとなった。
		観光型ホテル	昨年同時期と比較すると大幅に売上げが落ちている状況であるが、3か月前の状況と比較すると景気は変わらないと判断する。
		旅行代理店	現段階で、3か月後の受注予約は全くと言っていいほど入っていない。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスの影響がまだまだ多めで、人の動きが戻る気配が感じられない。
		タクシー運転手	変化がない。
		ゴルフ場	暖冬を加味しても3か月前と比べても増えていない。
		ゴルフ場	来場者数は微増であるが、販売単価は減少傾向である。
		写真店	顧客1人当たりの売上げは良くなっているが、撮影に来館する就職希望者が職につけないという話を聞き、景気は変わっていないと思うことが多い。

変わらない	企業	水産業関係者	変化を感じられなかった。
		製造業（電気機械器具）	3か月前から、液晶・半導体製造装置関連、自動車関連等一般産業向けの受注が増えてきている。一方、原子力関連は受注や引合いが少なく、全体で見ればさほど変わっていない状況である。
		製造業（精密機器）	新規及び開発の引合いがないので感じられない。
		運輸業	新型コロナウイルスの影響により出荷台数が減少している。新型コロナウイルスの対応（在宅勤務、出張自粛など）が続いており、先が見えない状況である。
		不動産業	不動産・建築業に従事しているが、個人の消費に特に変化は見られない。
		情報通信業（情報サービス業）	年度末に向かっての慌たしさはあるが、例年と変わらない。
雇用	公共職業安定所	先月の有効求人倍率は1.29倍と前々月と比べ0.03ポイント上回ったが、前年同月比は-0.20ポイントと13か月連続で下回っている。有効求人数は前年同月比11.7%減と20か月連続で減少している。新規求人数は前年同月比7.4%増と1年4か月ぶりに前年を上回った。産業別でみると、建設業が前年同月比76.1%増となっている。	
	学校就業関係者	職業柄判断材料が見つからない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	依頼される見積りの件数が減ってきている。
		コンビニエンスストア	店の売上げが落ちてきた。
		小売業（時計）	未だワクチンの一般人へのコンタクトがないので、不安感があると思われる
		ドライブイン	年末にあたる11月からは繁忙期でもあり、GoToが後押しして、皆がドライブや旅行に出掛けて盛り上がりを見せた。2月までは自治体の商品券効果もあり、客単価は上昇していたが、3月に入った途端客数が減少した。3か月前と比較して、売上げ76%、客数72%、客単価106%。前年同時期と比較して、売上げ107%、客数93%、客単価116%。
		写真店	緊急事態宣言により、例年あった仕事が中止になった。
		製造業（食料品）	販売価格の下落傾向が続く。
企業	製造業（電気機械器具）	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、特に海外メーカー発注品の完成立ち合いができず、入荷後の手直し（後戻り作業）がある。	
	製造業（電気機械器具）	前年と比べ、受注額が減少している。	
	製造業（電気機械器具）	新型コロナウイルスの影響により、主力製品の売上げや生産量が落ち込ん	
	製造業（一般機械器具）	3か月前と比較して、生産台数が下がっている。	
	建設業	取引先との話では、このコロナ禍で景況感は業績により様々ようであるが、消費活動を控えている方が多いようなので、総合的に判断するとやや悪くなっていると思う。	
	雇用	求人広告	緊急事態宣言の影響は大きい。新型コロナウイルスによる、あらゆる予算縮小を感じる。
求人開拓員	茨城県北地区においての企業からの求人数が、3か月前と比べて少ない状況。		
悪くなっている	家計	スーパー	新型コロナウイルスの影響から、家食増加でスーパー業界の需要が増加していたが、客数が伸びている訳ではなく、客単価が上がっている状態が続いていた。最近になり、客単価自体が下がり始めており、購入する物も選りばながら利用している。
		酒・各種商品小売業	緊急事態宣言により飲食店へ卸す酒の売上げが70%くらい落ち込んだ。
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの影響により客数が減少している。
		小売業（酒類）	頼りにしている得意先の飲食店が休業している状況である。
		スナック	自粛が終わっても、みんな外に出たがらないから。
		タクシー運転手	駅乗り減少が続く。夜の飲食店（飲み屋）の店じまいがある。夜間の利用者は、減少のままである。
		ゴルフ場	10～12月の来場実績は、対前年比109%の伸びで、1～3月の来場実績は、対前年比98%の減少だった。また、年末年始及び新年1月の来場者が、1月だけで82%の落ち込みだった。
企業	金融業	飲食業・サービス業は依然売上げが低迷していることに加え、製造業については4月以降の受注見積り依頼が大幅減少し、既に帰休を実施している企業もある状況。	
	運輸附帯サービス業	3か月前と比較すると、売上げが減り、利益もでない。	

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	ペット美容室	春の到来、そして、緊急事態宣言解除間近の昨今、人の動きが多いように感じる。久しぶりの客が来店してくださった。予約も一週間埋まっている。
	企業	製造業(精密機械器具)	12月も当社としては良かったのだが、3月は売上げペースで更に35%程度上昇している。
やや良くなっている	家計	小売業	当月売上高前年比と2020年12月期の売上高前年比を比較すると微増に転じている。
		小売業	3か月前は、新型コロナウイルスが広がってきた頃で、店舗での滞留時間が短く、目的の品を購入後すぐ帰る方が多かった。現在は県独自の緊急事態宣言が解除され、少し上向きになってきている。
		スーパー	近隣の飲食店の閉店が目立つ。また、客の利用は低価格指向である。
		スーパー	茨城県の緊急事態宣言が解除されたので、動きが少しだけ良くなってきた。
		スーパー	コロナ禍の環境の中で、売上げ・客数ともに戻りつつある。分野別では、食品に関しては、3か月前と比較して売上げ・客数ともに変化なし。ファッションや飲食関係は好調である。また、ゲームセンターに関しては変化なし。
		コンビニエンスストア	コロナ禍もあり、まだまだ客足は厳しいが、行楽関連の開放と客の予防対策徹底度の高さから、人の動きは良くなっており、売上げにも反映され始めている。
		楽器販売	売上げ的には少しではあるが増加しているが、現時点での対前年と比べるとまだ厳しい。ただ、販売金額の大小は別にして、鍵盤楽器が堅調に動いているので、日常生活において自宅での巣ごもり需要があるのかと考えられる。
		タクシー運転手	茨城県独自の緊急事態宣言が解除され、町全体に少しずつ客数が増加したような気がする。
		タクシー会社	新型コロナウイルス感染症対策としての緊急事態宣言による不要不急の外出自粛等が解除され、人の流れが少しずつ戻ってきているように感じる。特に、水戸駅等のタクシー乗車率が向上し、企業等の利用も増加傾向にある。しかし、観光を目的とした県外顧客の予約等が減少状態のままになっており、コロナ禍の影響が大きく、景気回復の兆しがあるものの数字の推移は低迷から少々上向きとなっている。
		道の駅	3か月前は新型コロナウイルスの第3波で感染者が最大に増加した頃で、外出等を控えたり、景気の先行きが不安定で買い控えたりという状況だった。今はワクチン接種も始まり感染者数も減少し、気持ちが前向きになってきたところという感じ。外出の機会も増えてきた感じである。
		レジャー施設	新型コロナウイルス感染者数がピーク時から減少方向へ転じてきているため、利用者の来場数もやや多くなってきている。そのため、天候が良いと出港する艇も多くなり、給油販売数量が若干増加傾向となっている。
		設計事務所	新型コロナウイルスにおける緊急事態宣言の解除により、世の中に活気が戻りつつある。引合いも徐々にではあるが増えてきた。
		設計事務所	1~2月に、建築工務店などからの設計業務の受注や計画の話があり、また、個人からの建物調査業務の受注も増加した。
企業	製造業(金属製品)	3か月前と比較すると、仕事の量も少しずつ増え始めている。ただし、コロナ前に比べると、かなり仕事も減り、単価も下落した。現在は稼働率70%程度で推移している。	
	不動産業	この時期は毎年のように需要はあるが、前年と比較しても客の来店数は増加している。新型コロナウイルスの影響はあまりない印象である。	
	建設業	新型コロナウイルスも次第に落ち着いてきている感があり、リフォーム、土地の購入等の相談が増えてきている。水まわり等どうしても生活の中で不具合が出れば修繕はしなくてはならないため、そのような依頼は増えてきてい	
雇用	人材派遣業	3か月前より受注は増えてきている。	

変わらない	家計	商店街代表者	あまり変化は見られない。
		小売業	客数が若干増えてきているものの、客単価が低くなっており、あまり売上げの増加は見られなかった。
		家電量販店	宣言解除から客足の伸びに期待するもあまり変化がない。
		小売業	新型コロナウイルスの落ち込みから回復できていない。
		自動車販売店	客の来店数は変わらず、全ての数字が対前年約100%で推移している。
		農産物直売所	ギフト商品の売れ筋価格帯、買上げ点数が変わらない。
		レストラン	新型コロナウイルスの第3波の影響がある。
		都市型ホテル	緊急事態宣言の再延長も含め、もう少しかかりそうな感じがする。
		都市型ホテル	1月、2月とかなり悪化したが、3月に入り宿泊、レストラン等の客足は戻りつつある。しかし、宴会や夜の客足までは戻らず、年末頃とあまり変わらない。
		旅行代理店	新型コロナウイルスの状況による。
		バス運転手	新型コロナウイルス感染者数の増加と緊急事態宣言発令により、人の動きに回復が見られない。
		タクシー会社	売上げ、営業回数ともにあまり変化が見られない。
		レジャー施設	コロナ禍の第3波がくる前の12月頃は、一時落ち着いてきて入場者が戻りつつあった時期だった。ところが、12月後半から2月上旬は、第3波による感染者の増加により、施設の休館もあり、入場者が落ち込んでしまった。2月中旬からは、徐々に入場者が増え始め、土日には例年に近い人数が戻ってきている状況となり、3月になってもその傾向が続いている。そのため、3か月前とほぼ同じ状況と考えている。
		スパ・銭湯	新型コロナウイルス第3波による緊急事態宣言が継続している。1都3県の下げ止まりの中では、春に良くなるムードも弱くなっており、先が見えていない現状のなか回復の兆しは見えてこない。
理・美容店	来店回数のサイクルが長くなっている。自分で毛染めをする人も増えてい		
企業	農業関係者	3か月前と変わらない。	
	製造業(食料品)	新型コロナウイルスの影響で、今は回復基調、3か月前は年末に向けて悪化傾向だったが、景気としては同程度である。	
	製造業(印刷・同関連業)	コロナ禍であり、まだまだ厳しい環境が続いている。	
	製造業(窯業・土石製品)	受注が低迷したままである。	
	製造業(一般機械器具)	受注先が、仕事量が減少しているため内製化しており、下請けに仕事が回ってこない。	
	建設業	職種の性質上、変化がない。	
	金融業	ウィズコロナとして各業種とも創意工夫しながら業をなしていると感じる。その結果、県独自の緊急事態宣言が発令され、上向きではないものの、何とか踏ん張っているように感じる。ただし、飲食業はこの限りでない。	
	サービス業(コンサルタント業)	受注量に変化がない。	
雇用	求人広告	あまり良い話は聞かない。	
やや悪くなっている	家計	観光名所	3か月前と比べて、来場者が少なくなっており、客単価が下がっているので、やや悪くなっていると思う。
		観光名所	営業もしていないせいか、客に動きはない。
	企業	運輸業(道路貨物運送業)	例年の年度末に比べ、一般貨物の荷動きが悪くなっている。
		工務店	公共事業はほぼ変わらず横ばいの傾向ではあるが、民間については問合せや依頼の件数が減少傾向にある。
	雇用	学校就業関係者	就職活動を継続している学生には、オーダーメイドのキャリア相談と併せて、採用を継続している企業の情報を提供しサポートしている。コロナ禍の中、就活や採用活動について、ネガティブな情報等があるが実態とは少し違うのではないだろうか。不安をあおられ、学生も採用する企業側も混乱する要因のひとつとなっている。不正確な情報からミスリードに繋がることを懸念している。こういう時期だからこそ、根拠のある正しい情報のもと冷静に対応することが必要である。
求人開拓員	2021年2月から当施設を利用する求職者の人数が増加している。		
悪くなっている	家計	割烹料理店	緊急事態宣言解除後もまだ客数が戻らない状態で、売上げの見通しが無い。
		レストラン	法人利用が伸びてこない。
		割烹料理店	茨城県独自の緊急事態宣言は解除されたはしたが、客の流れはまず飲食店には向かないようである。
		観光型ホテル	首都圏の緊急事態宣言が延長されたこともあり、自粛による需要の減退が続いている。
	旅行会社	ほとんどバスの依頼がない。	
企業	製造業(印刷・同関連業)	まだまだコロナ禍で経済に動きが感じられない。	
雇用	公共職業安定所	新規求人数は対前年同月比で4か月連続でマイナスとなっている。有効求人数は対前年同月比で15か月連続マイナスであり、4月以降二桁のマイナスである。有効求人倍率は対前年同月で14か月連続でマイナスポイントとなっている。	

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	高付加価値商品のスイーツやパック惣菜の販売が高くなっていることから、全体の消費量が増えていると感じる。
		農産物直売所	緊急事態宣言が解除され、客数が増えてきた。
		小売業（菓子類）	新型コロナウイルスの影響が少なくなっている。
		日本料理店	時短営業が解除されたので夜少し動いてきた。
		都市型ホテル	新型コロナウイルスの影響で、工場地帯の定期修理の時期が早まって分散している。
	レジャー施設	入店客数は微増している。	
	企業	製造業（鉄鋼業）	建築部品、自動車部品共に生産量が増えているのでやや良くなっていると判断する。
		製造業（鉄鋼業）	コロナ禍による需要減少が回復してきている。
		建設業	年度末の駆け込み需要が影響していると考えられる。
		運輸業（道路貨物運送業）	荷物情報が少しづつ戻り、空車回送が減ってきた。
雇用	金融業	新型コロナウイルス感染者数は抑えられており、一部の業種（観光業及び接客を伴う飲食業など）以外は総体的に客足が伸び、売上高は回復してきていると感じる。	
	人材派遣業	派遣求人が、僅かだが増えてきている。	
変わらない	家計	民間職業紹介業	業務量が増えてきており、企業先の受注も増えてきている。特に、半導体、車関係等の業種が良くなってきている印象。食品工場も低迷していたが、徐々に回復傾向にある。
		商店街代表者	新型コロナウイルス感染症の拡大から1年以上が経過し、当市内においてもクラスターによる感染者が発生している。国や県の施策にも限界があり、窓口来会や問合せの数も多く、まだまだ小規模事業者は苦しい状況にあると感じている。
		スーパー	売上げの前年比が3か月前と変わらない。
		小売業（薬品店）	新型コロナウイルスによる診療所への受診抑制が続いており、外来患者の受診抑制により相変わらず処方箋の枚数も伸びていない。慢性疾患の患者は増えているが、風邪等の患者等は減っている。（マスク、うがい、消毒等の効果もある。）
		小売業（食品）	まだ新型コロナウイルスの影響が大きい。
		和食レストラン	茨城県独自の緊急事態宣言は解除となったものの、新型コロナウイルスの収束は見えておらず、雰囲気は何も変わらない。
		観光型ホテル	予約状況からみて、予約、キャンセルの繰り返しである。
		道の駅	緊急事態宣言が解除にならないため、県外の客が少ない。
	クリーニング店	正月から自粛要請が出ていたので、人出は少なく、夜は19時頃は車の通りも少なかった。	
	企業	農業関係者	新型コロナウイルスの影響は、緊急事態宣言が長期間に渡り発令されているなかで、自粛疲れが身近な方にも出てきており、購買意欲も少なく、家での生活に必要なものだけの購入にとどめている状況と思われる。
製造業（化学工業）		生産状況は3か月前と比べ、今月も大きな増減がないことから、景気は横ばい状態が続く、変わらないと判断する。	
製造業（食料品）		新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、抗体がどれだけの人にできるかにかかっている。	
製造業（食料品）		温暖化の影響と思われる新物秋鯖漁の水揚げが遅れたのと、漁場が広範囲に拡散して薄漁が続いたことで、前同時期と比較して浜値が大幅に上昇したが、現在のコロナ禍の景況で販売数量を維持するには製品売価の引き上げは困難として、工場稼働率を優先せざるを得ない状況である。	
製造業（電気機械器具）		飲食や旅行などが酷い状態なのは変わらない。	
製造業（ゴム製品）		客先オーダー及び3か月発注予定から、変わらないと判断した。	
製造業（金属製品）		新型コロナウイルスの発生とともに、地方経済は停滞している。	
保険業		自動車保険は減少だが、他の保険でカバーしている。	
不動産業		会社として景気を配慮しながらというより、過去に販売したり、以前取引された個人客の生活環境の変化での住宅販売、賃貸が主である。	
サービス業		新型コロナウイルスの影響がまだまだ続いており、営業活動に支障をきたしている。年度末の駆け込み需要も昨年よりは鈍化しており、悪い流れが続いている。	
火力発電所		販売量に変動がない。	
雇用		公共職業安定所	大きな変動がない。
	学校就業関係者	コロナ禍における就職状況は、事務系職種は求人数が少なく就職に苦慮している。技術系の現場職種は人員の確保が厳しいため問合せが割と多い。介護関係職は感染症対策等により人員確保が必要とされるが、求職者に苦慮している。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	昨年3月からのコロナ禍による巣ごもり特需でスーパーマーケットの売上げは大きく伸びていたが、緊急事態宣言解除の影響もあり、その状況が落ち着いてきて従来の買物動向に戻りつつある。コロナ禍も1年を経過して昨年ほどの売上にはならなくなってきた。
		コンビニエンスストア	コロナ禍で人の動きが鈍い。
		衣料品販売店	昨年の春から徐々に景気が悪くなっている。実際、来店客数は激減している。
		家電販売店	12月と比較すると売上げ進捗が悪化している。近隣でクラスターが発生した影響も考えられる。
		小売業（薬品店）	潮来市のプレミアム商品券の利用が2月で終了し、客数・売上げともに落ちている。
		小売業（書店）	大ブームのビッグタイトルが終了して、次にくる物が見つからない。
		洋食食堂	緊急事態宣言解除後も若干の時短営業を続けており、特に夜の来店客数に影響している。
		割烹料理店	緊急事態宣言などもあり、解除はされたが、客はまだまだ動いていない。
		旅行代理店	GoToトラベルが一時停止状態であることから、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	来場者数は増えているものの、販売価格は下がっているため、景気観としてはあまり良くないと思われる。
		理・美容店	1月中旬に緊急事態宣言が出てから、いくら来店客数が減少している。特に、高齢者が減った。
	住宅販売会社	貸家の空き室数が増えた。	
	企業	運輸業（道路貨物運送業）	業績面は、なだらかではあるが下降している。
不動産業		客の来店数が段々少なくなっている。当社の売上げで前年比3%程度低下している。	
雇用	求人開拓員	段々に落ち着いてきているが、景気の良い話は一つも聞かれない。業種にもよるが、出す求人にはほぼ応募がないとのこと。稀にあったとしても、こちらが望むような求職者でないことが多いとのこと。	
悪くなっている	家計	農産物直売所	新型コロナウイルスで苦勞した前年よりも良くない。来店人数自体が明らかに減った。
		小売業	新型コロナウイルスが流行してから1年が過ぎ、昨年は会社も個人も支援や融資を受けて持ちこたえていたようだったが、最近は段々と厳しくなっているように感じる。
		観光型ホテル	3か月前と比較して、宿泊や宴会の予約が緊急事態宣言に伴い大幅に減少したことから悪くなっていると思う。
		運転代行	新型コロナウイルスの影響や時間短縮営業により、12月の売上げに比べると大きく下回っている。
		タクシー運転手	悪いながらも年末まで持ちこたえている感があったが、年明けから新型コロナウイルスの感染者数が再拡大すると、出張者等が更に減り始め、昨年の4～5月頃の雰囲気になりつつある。
		住宅販売会社	住宅のリフォーム・新築事業を行っているが、問合せが先月ぐらいから同年の30%程度になっている。平年通りHPやDM等で案内しているが、反響のない状況が続いている。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	コンビニエンスストア	客数が徐々に戻ってきている。
	企業	建設業	3か月前はそれなりに金額が張る工事をしていて、3か月後は小さい工事ばかりかと思っていた。しかし、今月は昨年よりも小・中取り混ぜて多くの工事を施工している。よって、景気は良くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	昨年12月頃と比較して、売上げが1.5倍程度に増えている。
やや良くなっている	家計	小売業	2度目の緊急事態宣言が発出されたものの、昨年の緊急事態宣言時より購買意欲は高まっており、新しい生活様式のお家スタイルに関する需要が多くなっている。
		小売業（生花店）	社屋の竣工に伴う御祝の花が2月末から3月にかけて増えてきた。
		都市型ホテル	宿泊の稼働は伸びていないが、レストラン予約や来館が3か月前より多い。また、宴会の予約の問合せが多少増えつつあることから、景気はやや良くなっていると思える。
		都市型ホテル	3か月前と今月を比べると、新型コロナウイルスの状況も良くなっていると客との会話でも話題となり、実際に客数も増加しており、景気はやや回復していると判断した。
		タクシー会社	客足が伸びている。
		サービスエリア	この3か月の間に、緊急事態宣言の発令、県独自の緊急事態宣言発令・解除と目まぐるしい状況の変化があり、単純な比較はしづらいが、2～3月にかけては、好天に恵まれたことや自粛疲れもあってか、来客数、売上ともに回復傾向がみられ、特にここ数日は学生等のバスの利用も若干見られるようになってきている。
		ゴルフ場	新型コロナウイルスの影響でプレー後のパーティー等は相変わらず敬遠されるが、来場者は増えているように思われる。ゴルフがコロナ禍の中で比較的安心と思われていることが影響しているのではないと思う。
		テーマパーク職員	通常予約制施設のため、当施設の利用を目的とし、利用料金なども事前に調べて利用されることがほとんどだが、今月は、筑波山周辺に観光で来た客が、突発的に利用するということが多かった。当施設の内容や、利用料金を知らず、現地で見てもその場で参加する方は、通常料金を見て次回にしようというケースが多いが、これくらいの料金であれば参加しようという傾向が今月は見受けられた。安い訳ではない料金なので、アクティブな客の景気は良いのではと感じる。
		ボウリング場	僅かではあるが、客の流れが良くなっている感じがする。
		レジャー施設	来場者数が3か月前と比較して増加傾向にある。
企業	製造業（食料品）	新規客としてキャッシュレスのポイント還元、特にPayPayの30%還元キャンペーンの影響が大きかった。上限はあるが、今月も20%還元なので期待はできる。取引先の委託製造分の出荷も加算されるので、出荷量も増える。そのため、売上げが良くなっていると思う。	
	製造業（食料品）	理由は分からないが、客数が若干多くなっている。	
	製造業（窯業・土石製品）	県独自の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言も解除され、以前と比べ人の外出が増えているような気がする。	
	不動産業	賃貸管理業における季節性によるものがあると思う。	
	運輸業（倉庫業）	今まで生産調整していた貨物がフル生産に移行された荷主もある。業種により消費の変化はあるが、全般的にやや上向き状態になっている。	
雇用	民間職業紹介業	取引企業からの受注が少し増えた。	
	求人開拓員	企業からの求人掲載依頼件数が、若干増加している。	

変わらない	家計	スーパー	客数、売上高ともにそれほど変わりがない。
		スーパー	コロナ禍の影響もあり、祭事、行事の盛り上がりがない。売上高、客数の伸びもない。
		スーパー	客数、売上げ、客単価ともに大きな変化はない。
		農産物直売所	他県の客が来店しない。給料とボーナスが下がった人が多数見受けられるので、野菜は買うが果物は買わないなど余計な買物をしなくなった。また、毎年送り物をしてきた客が無駄使いでできないからとやめている。
		小売業（米穀）	緊急事態宣言解除後も、飲食店の営業は厳しい状況で、定休日を増やしているところ、時短営業を継続しているところも多い。納品価格の見直し要求も出て来ている。
		和食食堂	変化する要素がない。
		洋食食堂	家族のお祝いや御奉仕について、取手市は例年通り予約が入っている。
		タクシー運転手	人出は微増しているが、相変わらずタクシーの利用客は戻ってきていない印象。企業の動き自体に変化がなく、駅待ちのタクシーの稼働がなかなか上がってこない。病院の通院や買物への送迎が多くを占めており、依然として難しい状況である。一人当たりの客単価は上がってきている印象。
		タクシー運転手	コロナ禍が収まらない状況が続く、タクシー利用者が非常に少ない。特に、18時以降の飲食店帰りの顧客はほとんどいない。
		理・美容店	緊急事態宣言が解除され、売上げにはそれほど変わりがなく、近くの店もやめるところはもうやめてしまい、残っているところはそのままなのでもうそれほど変わりはないのではないかと思う。
理・美容店	緊急事態宣言が出ていたため、変わらないと判断した。		
設計事務所	雇用状況、景気が十分に改善していない。		
企業	農業関係者	3月期（初旬まで）の来客数や客単価を前年12月期と比較すると、両者とも若干の減少傾向である。これは毎年の傾向であり、前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。	
	製造業（窯業・土石製品）	売上げが変わらない。	
	製造業（その他）	特に受注が増えるわけでもなく、変わらない。	
	製造業（窯業・土石製品）	建築・土木業に関しては変化を感じられない。	
	製造業（一般機械器具）	新型コロナウイルスの影響なく、事業が継続できている。	
	金融業	少しずつ回復傾向にあったが、令和2年11月27日からの飲食店への営業時間短縮要請や、茨城県独自の緊急事態宣言の発令により、引き続き新型コロナウイルス感染拡大によるマイナスの影響を受けており、売上げの確保や集客に苦労している状況が続いている。	
	不動産業	業績も堅調に推移している。	
雇用	公共職業安定所	コロナ禍での巣ごもり需要により、売上げが増加した企業もあるが、ほとんどの企業がコロナ前の状態には戻っていないと思われる。	
	学校就業関係者	業務の関係から、学生に対する求人等からの判断となるが、3か月前から変わらず求人依頼がある。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	客単価が下落している。
		家電販売店	購買意欲が下がっている。
		衣料品販売店	新型コロナウイルスで自粛ムードが強い。スーパーなどの食品は毎日必要なものだが、おしゃれ着となると今はあまりいらぬのではないかと。
		都市型ホテル	新型コロナウイルス感染拡大により宿泊者の移動自粛が影響しているものと思われる。
企業	農業関係者	コロナ禍の影響により、従来の営業活動が行えていない。	
	製造業（印刷・同関連業）	多くの業種でコロナ禍の影響が出てきている感じがする。	
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	消費税の増税や新型コロナウイルスの影響、たばこの値上げや増税によりたばこをやめる人が増えた。
		和食食堂	店のランチ等の売上げは観光客の減少、集まり事の自粛に伴い減少した。また、葬儀に携わる仕出しもやっているが、会食の制限により売上げは下がった。
		寿司店	新型コロナウイルスによる感染予防などで客がこない。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスによる影響がある。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスによる影響がある。
		企業	製造業（非鉄金属）

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	飲食業は3か月前の年末は酷いダメージだった。その3か月前と比べるとやや良くなっている。	
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルスに慣れてしまっているせいか、週末の外出による来店客数が増加傾向にある。	
		小売業（酒類）	新型コロナウイルス感染予防のための自粛要請が解除になり、今まで休んでいたり時短要請に応じていたりした飲食店が通常営業のための準備を始めている。	
		タクシー運転手	12月と比べると、22%ほど營收が伸び、長距離の人を乗せるようになった。更に、夜の飲食店も徐々に元気が出てきて店に迎えに行くことが増えたので、やや良くなっていると思う。	
		道の駅	実感としては、ほとんど良くなっているとは感じられないが、週末の人出は徐々に増えてきている感じはある。（新型コロナウイルス前とは比較にならないが、）	
		ゴルフ場	商業施設や銀行などが混み合ってきている。コロナ禍の自粛が緩和されたことで、交通量も増えてきている。	
		理・美容店	コロナ禍の生活に慣れてきた感じで、サイクルが良くなってきた。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	受注数や工場内稼働率、雇用調整助成金の申請内容で比較しても、3か月前より少し回復傾向にあると思われる。	
		製造業（電気機械器具）	業種にもよるだろうが、自動車関連の業績が回復し、材料の入手が困難になってきていることを考えると良くなっていると思う。	
		製造業（非鉄金属）	販売量が戻りつつあるが、半導体の影響により販売の変動がある。	
		製造業（窯業・土石製品）	受注残が増加している。	
		製造業（窯業・土石製品）	中国の稼働生産状況が春節前でまだ時間がかかっているのか、または国内産出石、国内加工製品が評価されたのか、どうなのかは検証できないが、ありがたいことに想定以上の受注がある。やはり墓石も日本国内製品が安心で間違いない、信用、信頼できると言われる品質の良さをアピールしていく。	
	雇用	建設業	公共工事の受注も少しは増加しており、3か月前よりは少し良くなっている。	
		人材派遣業	人材の依頼が多い。	
		求人広告	客との会話から、景気が悪いという話題よりも、これからどうしていくのかという前向きな話が多くなった。客の採用意欲も高まってきた。	
		人材派遣業	自動車関連企業（製造・物流）で派遣の打診が増えてきた。また、ワクチン接種に関する求人（受付・受電対応）が増えている。半面、新卒採用を凍結、または昨年より減らしている企業が多い。	
	変わらない	家計	求人開拓員	管内の求人数が単純な増加傾向はみられないが、徐々に増加していると感じられる。
			農産物直売所	一部、価格高騰の商品はあるが、ほぼ安値である。
旅行会社			新型コロナウイルスの自粛にも慣れてしまい、消費行動が目には見えない。（インターネットでの買物が増えている。）	
タクシー会社			特に変わりはない。	
道の駅			新型コロナウイルスの影響が残り、外出機会が減ったままである。	
ゴルフ場			予約状況により、変わらないと判断した。	
設計事務所			今年に入り動きが止まっている。今月もその状態である。	
設計事務所		変化が見られない。		
企業		畜産業関係者	特段変わらない。	
		製造業（化学工業）	昨年後半からのパソコン、スマートフォン、IT通信インフラの需要好調が継続し、電子材料製品の受注が好調である。	
	製造業（金属製品）	仕事の依頼が変わらずある。		
	建設業	特に変化を感じない。		
雇用	金融業	3か月前と比較して、売上げなどに変化がない。		
	学校就業関係者	特段良くなる要因がないように思われる。		

やや悪くなっている	家計	スーパー	来店頻度の減少や客単価の低下など買い控えの傾向がある。前年が新型コロナウイルスで異常値だったために、前年比でも厳しい状況。
		スーパー	客の購入金額が徐々に減少している。
		コンビニエンスストア	客数が減少している。
		家電販売店	来店客数が3か月前と比較して緩やかに減少している。
		自動車販売店	新規客の来店が少なくなっている。
		メガネ・時計販売店	売上げ、客数とも減少している。
		レストラン	街の支援のクーポン販売があり、客の来店もあったが、1月でクーポンも終わりになり、客の動きが悪くなった。時短も解除されたが、特に夜の客の動きが悪い。新型コロナウイルスの終息が見えてこないと思気は上がらないと思
		和食レストラン	外食控え、外出自粛、宴会・食事会の禁止が推奨されているため、客数自体が減少している。
		旅行代理店	新型コロナウイルスの影響で、旅行者、送迎者ともにいない。最悪の状態が続いている。
		レジャー施設	緊急事態宣言の再発令により、小売、卸売共に、売上げの減少が見られる。特に、小売は顕著であり、客足が遠のいている感覚がある。
	商店街代表者	新型コロナウイルスの第3波の影響は大きいと思われる。対策を講じて営業はしているが同じ地域で感染者が多数発生していることもあり、後脚が買物行動を必要最小限に自粛しており、この先、数か月程度は影響はあるものと思われる。なお、個別的には業種により新型コロナウイルスに影響を受けない事業者や創意工夫で脅威を機会に変えている事業者も見受けられる。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	新型コロナウイルスの影響で仕事の流れ（受注）が少なくなっている。
		製造業（金属製品）	客先の発注量は減っている。さらに「4月以降の計画については回答できない」という説明があり、不安感が増している。
不動産業		建売ハウスメーカーが仕入れを控えている。	
サービス業（コンサルタント業）		県の緊急事態宣言を受け、飲食店の打撃が大きいように感じている。また、代行運転業等も相当な打撃を受けているようである。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	洋服店だが、時期的に制服関係の商品しか売れない。婦人服、雑貨も激減で、紳士用商品は全くない。
		衣料品販売店	一般の来客がなくなった。
		製茶販売	来店回数が減った。一度に買われる金額も量も減った。
		食堂	3か月前は家族で来店される客もいたが、今はほとんど見られない。
		都市型ホテル	新型コロナウイルスの影響がある。
		タクシー運転手	デマンドは新型コロナウイルスの影響により業務が悪化している。
		クリーニング店	自粛ムードが強く、外出や出費を自粛している傾向が続いている。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	スーパー	緊急事態宣言の解除により、やや持ち直してくると思う。	
		小売業（弁当・惣菜店）	新型コロナウイルスの影響は薄れると思うが、今後の感染次第では不透明である。	
		小売業（燃料）	希望的観測も含め、新型コロナウイルスのワクチンにより、物流や人の流れが回復し売上げも戻ると思う。	
		小売業（時計）	新型コロナウイルスのワクチンの影響が少し良い方向に向かうと思われる。	
		ラーメン店	新型コロナウイルスのワクチンも普及してきて、人が安心して行動すると思う。	
		観光型ホテル	国、県の緊急事態宣言が解除され、宿泊予約の問合せは増加傾向にある。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、現在の感染状況が続くのであれば、景気はやや良くなっていると思われる。	
		タクシー運転手	新型コロナウイルスの状況次第である。	
		タクシー運転手	3月中旬過ぎから、少し夜に飲食する人が増えた。ワクチン接種で利用者が見込める。土日は人出が増えてきた。また、人気の飲食店は混雑している。	
		ドライブイン	ワクチンが行き渡って少しずつ新型コロナウイルス前の生活、余暇を取り戻せていければいい。今も、大規模ではないが、レジャーや花見などのイベントを対策しながら進めている部分もある。	
		レジャー施設	ワクチン接種者数が徐々に増え、新型コロナウイルス感染症に関する影響が現在より少なくなると期待している。（周知のとおり、景気は感染者数の増減にはとても大きく影響されると実感している。）	
		ゴルフ場	集客に関するイベントがあるため、予約人数が増えている。	
		ゴルフ場	向こう2～3か月先の団体予約（コンペ）が復調気味に推移している。	
		住宅販売会社	新型コロナウイルスが落ち着きだして人の動きが戻ったことと、土地購入意欲が上がってきており、このことは今後も続くと思われる。	
		企業	企業	製造業（化学工業）
運輸業	徐々に顧客製品の出荷台数が増えてくる見通しだが、まだ確定ではない。いずれにしてもすぐには良くなると思う。			
運輸附带サービス業	作業量が増える見込みがある部門がある一方、減少した作業量がいづつ回復するか分からない部門もある。			
変わらない	家計	酒・各種商品小売業	まだまだ新型コロナウイルスの感染が収束しない。国の政策も、夜の飲食だけであり、早急に収束するとは思えない。	
		コンビニエンスストア	今までと仕事は変わっていない。	
		衣料品販売店	底から上向きになっていない。	
		小売業（酒類）	しばらくの間、悪い状況のまま変わらないと思う。	
		小売業（水産物）	茨城県まん延防止警戒期間が解除となれば、景気も回復していくと思う。	
		観光型ホテル	新型コロナウイルスの動向により良くなったり、悪くなったりすると思う。	
		旅行代理店	新型コロナウイルスの感染状況次第だと思うが、急激に移動を伴う旅行の需要が高まるとは思えない。	
		タクシー運転手	3月に入り、少し飲食店からの受注も増えましたが、タクシー全体の売上げとしてはまだまだである。	
		タクシー運転手	理由を見つけられない。	
		写真店	3か月先も変わらないと思う。新型コロナウイルスによる影響は続き、不安感が皆の心から消せない状態を人々の話の中で感じる。	
	企業	企業	林業関係者	大きくは変わらない。
			水産業関係者	変化する要因が感じられなかった。
			製造業（電気機械器具）	3か月前から、液晶・半導体製造装置関連、自動車関連等一般産業向けの受注が増えてきている。一方、原子力関連は受注や引合いが少なく、全体で見ればさほど変わっていない状況である。以上の状況は当面続く見込みである。
			製造業（精密機器）	半導体が景気を引き上げるかもしれない。
製造業（精密機器）			まだまだ動きが悪いように感じる。今年は新型コロナウイルスが落ちついてもわからないと思う。	
金融業			新型コロナウイルスの影響は長期化が見込まれると予測している客が多いため、今後3か月先の景気は変わらないものと思慮される。	
雇用	雇用	不動産業	コロナ禍におけるワクチン接種も、ワクチン確保に苦労していることや時間が掛かることを考えると、今後も一進一退が続くと思う。	
		公共職業安定所	産業別で見ると、製造業では家電関係の受注があるが、一方で休業を余儀なくされている事業所もあり、求人に至らない状況が続いている。宿泊、飲食業では緊急事態宣言発令やGoToキャンペーンストップにより、出張等での利用者や飲食（外食）が控えられていることにより厳しい状況が続いている。	
		求人開拓員	新型コロナウイルスの終息状況にもよるが、3か月では景気が良くなっていくとは思えない。	

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	新型コロナウイルスの蔓延でやや悪くなっていると判断する。
		商店街代表者	例年より新規の商談、見積りの数が減ってきている。
		スーパー	生活環境はあまり良くない状況が続くと思われ、我々小売業の需要も適度に続くと思うが、やはり使う金額は少なくなってくると考える。今後、オリンピック開催の有無によっても、状況は若干変化すると思われる。
		スーパー	中小企業を中心に雇用調整の話を知っている。賞与も減額傾向であるため、日々の販売額の減少が見られる。客単価は下がっている。
		ゴルフ場	1～3月の来場実績に比べ、4～5月の入学・入社動きは自粛の気配で10ポイント客数が減少する兆し。
		写真店	新型コロナウイルスがまだまだ終息にはならなそうである。
	企業	製造業（食料品）	コロナ禍の助成金関係の終了後に実際の影響は出てくると予測している。
		製造業（電気機械器具）	新型コロナウイルス感染拡大に伴う、調達遅れ等がある。
		製造業（一般機械器具）	次月においても前年度と比較して低い水準を想定しており、3か月後も続く想定する。
		製造業（輸送用機械器具）	新型コロナウイルスに対応した第4波の懸念、半導体供給不足、北米での寒波に伴う樹脂材料の逼迫等により、売上げ減少のリスクが大きい。更に、材料市況の高騰、高値継続が予測され、依然として厳しい状況にあり、予断を許さない状況である。
建設業		取引先との話では、民間設備投資は対前年比で2割程度減少しているとのことなので、この先は明るくない。さらに悪い影響が拡大すると思う。	
情報通信業（情報サービス業）		来年度の話が、新型コロナウイルス一色だったり先送りになったりして、具体的に聞こえてこない。	
雇用	求人広告	抜本的な解決が見込めず不透明感が続く以上、回復は見込めない。	
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの影響により客数が減少している。
		スナック	コロナがもっと落ち着いて、ワクチン接種も済み、それほど恐ろしい病気ではなくなると認知されるまでに相当の時間がかかると思うから。
		観光型ホテル	進捗状況も非常に悪く、全く動きがない状態である。今後の存続が危ぶまれる。
	企業	製造業（電気機械器具）	前年と比べ、受注額の減少が見込まれる。
		製造業（電気機械器具）	主力製品の2021年度生産量は落ち込む。また、牽引してきた家電製品にも陰りが見える。

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	ペット美容室	新型コロナウイルスのワクチンも出回り始め、人々の生活も活性化が始まっていると思う。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	新型コロナのワクチン接種も始まり、不安要素もあるが、少しずつ良くなっていく期待感を感じる。
		小売業	緊急事態宣言の解除とともに客足が若干戻ってきており、客数は今後も更に増えてくるかと思われる。
		小売業	県独自の緊急事態宣言解除による消費マインドの回復が期待できるが、本県並びに関東4都県（東京・神奈川・埼玉・千葉）の感染状況とワクチン接種状況・スケジュールは常に注視する必要がある。
		割烹料理店	良くなってもらわないと経営が厳しい。
		スーパー	新型コロナウイルスのワクチン接種が進めば、ある程度人の動きが良くなり、景気も上向くと思う。
		コンビニエンスストア	コロナ禍もあり、まだまだ客足は厳しいが、行楽関連の開放と客の予防対策徹底度の高さから、人の動きは良くなっており、売上げにも反映され始めている。
		小売業	新型コロナウイルスのワクチンへの期待がある。
		レストラン	緊急事態宣言の解除で、都市部からの観光客の増加がある。
		レストラン	第4波さえこなければ、今よりは良くなっているはず。
		割烹料理店	ワクチンに期待する。
		都市型ホテル	ワクチン等により感染状況が改善していることを期待している。
		都市型ホテル	来館される客は何回もリピートして来ていただく方が中心で、会話からも以前より外出することが多くなったと聞くので、全体的に利用される客が増加すると思う。
		観光型ホテル	1月や2月と比べ、週末などの予約が動いていることから、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば、やや良くなっているものと思う。
		タクシー運転手	現在の状況を考えると、一番底の状態を脱しつつある時期と考える。大規模な集まりはできないにしても、4人以下の会食が増えていく気がするので、3か月先は今よりはやや良くなっていると期待する。
		タクシー会社	首都圏の緊急事態宣言が解除されることで、人の流れが多少なりとも良くなると思われる。
		タクシー会社	新型コロナウイルス感染症対策のワクチンが一般市民にも行き渡ることが前提となるが、GOTOキャンペーン等の景気回復の起爆材料が活用され、全国で緊急事態宣言や不要不急の外出自粛要請が解除されて、国外・県内外の人の流れが少しずつでも戻れば景気が回復するものと思うが、回復するスピードは遅いものと判断している。
		道の駅	新型コロナウイルスのワクチンを接種した人も増えて、新型コロナウイルスが命を脅かす病気からは一歩後退すると思うので、元の通りまではいなくても、ある程度経済が回復するだろうと思っている。
		レジャー施設	新型コロナウイルス次第だが、ワクチン接種も始まり、徐々に景気も良くなっていくと期待も込めて考えている。
		スーパー銭湯	ムードが悪い中でも良くなる気配は感じられているため、今後、新型コロナウイルスのワクチン接種による感染者の減少がみられてくると信じているので期待したい。
		レジャー施設	この先の新型コロナウイルスの感染状況によるが、このまま減少方向に進めば、利用者の動きも増え、景気も回復方向へ向かうのではないかとと思われる。
設計事務所	ワクチン接種の普及や首都圏の1都3県、北海道の緊急事態宣言解除があれば、徐々に街の活気が戻ってくるように思える。		
企業	農業関係者	良くなっていると思いたい。	
	製造業（窯業・土石製品）	新規大型受注の予定があるがまだわからない。	
	製造業（精密機械器具）	コロナ禍であり、一部業種が不況になっているが、製造業では大きな落ち込みはないようである。ワクチン接種も開始され、これまでの経済制約の反動から、活性化された市場環境になると思われる。	
	運輸業（道路貨物運送業）	新型コロナウイルスの動向によっては荷動きが良くなると思われる。	
	建設業	相談件数が増えてきている。しかし、受注までには2～3か月かかる。	

変わらない	家計	小売業	新型コロナウイルスのワクチンの効果次第だと思っている。新型コロナウイルスが落ちれば、徐々に上向きになる。ただし、変異ウイルスが猛威をふるえば、昨年より厳しい状態になるのではないかと。	
		スーパー	今後の新型コロナウイルス感染症の状況により左右される。	
		家電量販店	オリンピック景気も期待するほど効果がなさそうである。	
		自動車販売店	販売、サービスとも変化する材料はなくほぼ横ばいで推移すると思われる。	
		農産物直売所	相変わらず大人数での来店予約がない。次月のギフトの予約が相変わらず少ない。	
		楽器販売	県内の緊急事態宣言は解除されたので動きは出そうだが、都心部の動きに結構左右されるかと思う。特に、3か月後になるとオリンピックが目前となる。実施、中止、延期のどれなのかで景気感が変動するようになると思う。それらを全く意識しないでの3か月先の景況予想は流石にしぶらしい。	
		旅行代理店	新型コロナウイルスが下火になったとしても、すぐに反映されない。	
		旅行会社	新型コロナウイルスの影響で旅行に行く人がいない。	
		バス運転手	これ以上悪くならないとは思っているものの、好転する材料も感染症の拡大動向次第だと思える。	
		観光名所	3か月先も同じような傾向であると予想される。	
		観光名所	新型コロナウイルスが落ち着いていないので、変わらないと思う。	
		理・美容店	新型コロナウイルスについて、先が見えない。深刻である。	
		企業	製造業(食料品)	新型コロナウイルス次第。春休みやゴールデンウィークで感染拡大なら悪化もある。
			製造業(印刷・同関連業)	客から、まだまだ先の見通しが立たないと言われているのが現状である。
製造業(金属製品)	見積りの件数も特に増えておらず、しばらくは現状のまま低位横ばいで推移していくと思われる。			
製造業(一般機械器具)	新型コロナウイルス感染予防対策により、思うような営業活動ができない。			
建設業	ローカルベースには変化の兆しはない。			
金融業	ウィズコロナとしての営業スタイルが確立しつつあり、感染予防しながらの環境が徐々に整いつつあるため、変わらないと判断する。最も、好転まではいかないと感じる。			
不動産業	需要は減るが、景気が悪くなるとは思わない。			
サービス業(コンサルタント業)	受注量に変化がない。			
雇用	人材派遣業	まだまだ先が見えない状況が続いていくと思われる。		
	求人広告	とりあえず新型コロナウイルスが落ち着くまでは良くならないと思う。		
	求人開拓員	新型コロナウイルスによる企業業績の悪化の顕在化とワクチン接種をはじめとするコロナ対策の具体的進展とが相殺され、現状とほぼ同様の状況と思われる。		
やや悪くなっている	家計	スーパー	近隣の飲食店の閉店が目立っており、また、客の利用は低価格指向である。これらの理由や、パート・アルバイトの採用状況から、やや悪くなっていると判断する。	
		設計事務所	現在の仕事増はあるものの、コロナ禍が継続すると予想すると、受注件数の減少が想定される。	
悪	雇用	企業 工務店	今と同じ状況が続くと思われる。	
		学校就業関係者	県独自の緊急事態宣言解除後も、自粛ムードが強くなっていると感じる。キャリア相談やガイダンス、求人の閲覧などのWeb化により一定の支援はできているが、対面での支援を求める声もある。また、今後就職活動やインターンシップの移動に制限がかかると活動自体が停滞する恐れもある。	
		企業 製造業(印刷・同関連業)	売上げ減少が続いており、この先不安しか感じられない。	
	雇用 公共職業安定所	有効求職者が減少傾向にあり、有効求職者数は引き続き減少傾向にある。		

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	コンビニエンスストア	ワクチン増産、金融緩和により消費が活発していくと感じる。
	雇用	民間職業紹介業	新型コロナウイルスのワクチン接種が進めば、今のように市場が止まることなくなるので、今後は良くなっていく見通しである。取引先でも、今後の見通しは増産傾向となっている。
やや良くなっている	家計	小売業（菓子類）	人出も多くなっているようであるし、新型コロナウイルスもワクチンの効果があれば景気も良くなっていくと思う。
		小売業（薬品店）	プレミアム商品券の駆け込み需要の反動によるマイナスの影響はなくなっていると思われる。
		日本料理店	自粛疲れと旅行業者の間合せの増加がある。
		観光型ホテル	去年6月の緊急事態宣言解除後も徐々に客が増えていったことを考えるとやや良くなっていると思う。また、GoToキャンペーンが再開されたら、客が増えると考えられるため、今後3か月先はやや良くなっていると思う。
		タクシー運転手	乾燥時期が終わり、ワクチン接種が進んで感染者数が減っていれば、やや良くなるのではないかと少しだけ期待している。
		レジャー施設	新型コロナウイルスのワクチンの普及、季節や気候の移り変わりによりやや良くなっているかと判断した。
		クリーニング店	4月に高齢者からワクチン接種開始なので期待している。飲食店も普通営業しているので、少しずつ活気が戻ってきている。
	企業	製造業（鉄鋼業）	農機具などの生産も増えてくるので、やや良くなっていくかと思う。
		製造業（電気機械器具）	良くなってほしいという願望である。ワクチン接種の拡大・五輪の開催などで、景気の上昇ムードが欲しい。
		製造業（鉄鋼業）	需要の回復が見込まれる。
		運輸業（道路貨物運送業）	地元の企業も動き出しているため、乗務員の人手不足になっている。
		金融業	積極的な金融対策により、当面の資金繰りは補えていると感じる。また、企業・家計においては新たな戦略や生活様式も定着しつつあり、ワクチン接種も具体化してきていることから、回復基調が続くと思われる。
		保険業	自賠責保険料の2年連続の値下げで、客の負担が少なくなっている。
		不動産業	新型コロナウイルスも、ワクチン接種が進むだろうし、治療関係ももう一歩進むことと考えられるのでやや良くなっているかと判断する。
変わらない	家計	商店街代表者	オリピックの開催は今のところどうなるか分からないが、会員へのアンケートでも、景気回復見込みは1年・2年先、分からないと圧倒的に多く、実際の経営者目線の見解が出ていると思うので、3か月後も変わらないと思う。
		スーパー	新型コロナウイルスの影響がまだまだ続きそうである。
		スーパー	依然としてコロナ禍の終息はまだ見えない状況であり、県内のコロナ感染クラスターも発生している状況下では、経済活動は鈍化しており、厳しい状況が継続すると感じられる。
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルス対策があまり進んでいない。
		家電販売店	近隣状況が改善されたとしても現状より良くなる要素は今のところない。
		農産物直売所	変わらず良くないと思う。新型コロナウイルスが収束していないと思う。
		小売業（薬品店）	基本、新型コロナウイルスが落ち着かないと患者は増えないと感じる。特に、子供や高齢者は多少の症状だとドラッグストア等でOTC薬品を購入しているとの声を聞く。
		小売業（食品）	まだ新型コロナウイルスの影響が大きい。
		小売業	分からないのが本当のところ。変わらないことを切望したい。
		和食レストラン	ワクチン接種の進捗や第4波がどうなるのかにもよるため不透明である。
		割烹料理店	コロナ禍の状況次第だが、多人数の宴会は難しいと思う。
		海鮮料理店	観光会社、地元の行事など、未だにキャンセルが続き、先の見えない日々を過ごしている。
		旅行代理店	GoToトラベルが復活しないと変わらない。
		都市型ホテル	今まで以上の景気回復は見られないように感じる。
		道の駅	新型コロナウイルスの収束が見えない。
		ゴルフ場	新型コロナウイルス感染症の状況に大きく影響されると恐れ、3か月後も状況は不透明である。
企業	農業関係者	新型コロナウイルスが終息するまでは、消費者の購買意欲は少なく、自粛期間により、飲食業を中心に青果物の消費量が少なく予想され、家庭内での消費がどのくらいあるかが予想できないため、全体的には景気は停滞傾向ではないかと思われる。	
	製造業（化学工業）	ユーザーの生産の稼働率は横ばいの状況が3か月先も続くと思われるので、景気は変わらないと思う。	
	製造業（食料品）	3か月ではそうは変わらない。	
	製造業（食料品）	コロナ禍の中で食料品製造業の売上げは比較的安定推移しているが、今後の景気好転は新型コロナウイルス感染者の減少にかかっている。	
	製造業（ゴム製品）	客先オーダー及び3か月発注予定から、変わらないと判断した。	
	製造業（金属製品）	上向きの経済活動は、しばらくの間望めないと思われる。	
	建設業	年度初めで業界は鎮静化すると考えられる。	
	サービス業	新型コロナウイルスが沈静化しない限り、現況が続くと考えられる。少なくとも2021年度第1四半期においては景気が好転するとは思えない。	
	火力発電所	好転する材料が見当たらない。	
	雇用	人材派遣業	新型コロナウイルスが収束するのか見えない。
公共職業安定所		新型コロナウイルスの感染状況により、変動の可能性があると思われる。	
学校就業関係者		企業からの求人変化は感じられない。	

やや悪くなっている	家計	衣料品販売店	オリンピックを何としても開催して盛り上げようと政府、協会は頑張っているが、一般市民が全くついていけない。とにかく閉塞感を感じる。
		小売業（書店）	新型コロナウイルスの影響で買い控えがあると感じる。
		洋食食堂	新型コロナウイルスの状況が全く見通せず、特に飲食店は、コロナ患者発生の一因としてマスコミに取り上げられ、外食は”不要不急”のことになってしまっている。
		運転代行	新型コロナウイルスが落ち着かない限り、この傾向は続くと思うので景気はやや悪くなっていると思う。
		理・美容店	皆、仕事が減っているので、何かを削らないといけない。理容面では、1000円カットに行く客も少なくない。
		住宅販売会社	リフォーム・新築等で省エネグリーンポイント制度等の国の施策がある一方で、省エネ性能の説明義務として金額の張る要素がある。いずれにしてもコロナ禍で所得が減っている状況で、計画延期の客も出てきている現状もあり、良い方向には考えづらいと思っている。
		住宅販売会社	新型コロナウイルスの流行で入居者の収入が減少する。家賃の下げ圧力になる。
	企業	運輸業（道路貨物運送業）	現状の動向から、しばらくはこの状況での推移と思われる。
		不動産業	新型コロナウイルスの終息が見えない中、ワクチンの入荷状況次第ではないか。居酒屋、飲食店などは当分客は元に戻らないのではないか。
	雇用	求人開拓員	これからも小規模事業所は増々悪くなるような感じである。工務店の代表の話だが、1月にリフォーム工事を受注するも、資材や機材等が思うように揃わず、職人も遊びがちで思うような利益もあげられないとのこと。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	コンビニエンスストア	更に季節指数が上がり、昨年とは比較にならないくらい景気は回復すると思う。
		和食食堂	緊急事態宣言が明け、コロナ前の生活習慣に戻りつつある。
		洋食食堂	新型コロナウイルスが終息すれば集まりは増えていく。
		テーマパーク職員	昨年度の同時期は、新型コロナウイルスの影響で、どこにも出かけることができなかった。家で過ごす方が多かった。このまま緊急事態宣言が解除され、世の中が動き出すと、今まで自粛していた方も、体験型の施設などに足を運ぼうとされる方が増えるように感じる。現に、2~3か月先の予約が入り始めている。新型コロナウイルスの影響でどうなるか予測できない部分はあるが、このまま世の中が動き出せば当施設のような場所は景気が良くなると感じる。
企業	建設業	来年度は新型コロナウイルスの影響で税収が少なくなり、受注工事が減るのかと役所担当課に聞いたら、小さい工事なら毎日のようにあると言われた。小規模事業者としては大いに期待したい。次年度分の見積りをかなりしているの、コロナ禍でも景気は良くなっていると思う。	
	雇用	求人広告	直近3か月は、月を追うごとに売上げが伸びてきている。
やや良くなっている	家計	小売業	新しい生活様式のお家スタイルも定着してきて、需要も安定的にあると思われる。
		衣料品販売店	やや良くなっているよう希望している。
		都市型ホテル	ワクチン次第のところはあるが、大きな案件のキャンセルも少なくなり、訪問先の話から、期待値を含め、やや良くなってくると思われる。
		都市型ホテル	問合せ件数が伸び始めているので、状況が良くなれば現状よりは景気がやや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	首都圏の緊急事態宣言も解除される見通しなら、宿泊客の移動も緩和され徐々に回復するものと思われる。
		タクシー運転手	客が駅を嫌い、自宅までお送りするケースが増えてきており、客単価が多少増加している。この傾向は少なくとも1~2か月はまだ続く予想を立てている。
		タクシー会社	茨城県独自の緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの予防接種も始まるので変わると思う。
		サービスエリア	新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことによる外出ムードの高まりから、幾分景気は良くなるのではないと思われる。
	ボウリング場	まだまだワクチンの効果は期待できそうにないが、最近は若い客でもしっかりとコロナ対策をし、大声を出さない、マスクを外さない等のマナーを守って利用されている。こういった感染予防のマナーが浸透すれば、外出する方も増え、景気も回復傾向に向かうかと思う。	
	企業	製造業(非鉄金属)	部品のサプライチェーンが正常化すれば回復する。
運輸業(倉庫業)		今後も生産を続けるため良い傾向に向かいつつある。ただし、消費によって横ばいになる可能性もある。	
雇用	求人開拓員	1都3県の緊急事態宣言解除により、企業活動の活性化が予想される。	
変わらない	家計	スーパー	新型コロナウイルスのワクチン接種が各地区で始まって客数が伸びるとは思えない。
		スーパー	新型コロナウイルス次第である。
		スーパー	オリンピックの開催により、多少の盛り上がりはあるかもしれないが、まだ開催の決定はされておらず、外国の方の応援のための入国は拒否することなので、景気は変わらないと思う。
		スーパー	ライフスタイルが変化し、新型コロナウイルスが終息していても、すぐに元に戻ることはないと思う。
		農産物直売所	新型コロナウイルスの影響で給料が下がり、先が見通せずお金を使えない。
		小売業(生花店)	入出が3か月前より増えてきているように思える。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスの終息が見えてこない限り、先が見えない。顧客のライフスタイルが変化している。
		ゴルフ場	ワクチン接種やオリンピック等の要因はあるが、現在と比べて良くなっているとは予想がつかない。
		レジャー施設	現在の客の様子から判断できる材料がない。
		理・美容店	ワクチンやオリンピックの影響で良くなるはなっていくとは思いますが、3か月ではあまり変わらないと思う。
	設計事務所	新型コロナウイルスのワクチン接種が行き渡り、経済活動の活発化が見込まれば良くなると思う。	
	企業	農業関係者	アフターコロナの展望が見えない。
		農業関係者	今後の景気回復の要素が見当たらない。
		製造業(食料品)	小売り向けの販売は増加の兆しがあるが、業務用の出荷は不透明。結果として売上げは変わらないと予測する。
		製造業(窯業・土石製品)	4月、5月と売上げ見込みの変化はない。
製造業(食料品)		景気に関する要因が特にないので変わらないと思う。	
製造業(その他)		製造業としての材料の値上がりもあり、今後の景気に関しても良くなるとは思わない。	
製造業(窯業・土石製品)		県の自粛は解除されたものの、東京をはじめとした1都3県の解除は見送られ、本格的な回復はまだまだ先と思われる。	
金融業	製造業(一般機械器具)	変わるような材料がない。	
	金融業	令和3年2月23日から、茨城県独自の緊急事態宣言も解除となり、人の動きも活発になりつつある。しかしながら、一般市民へのワクチン接種が広がらない限り、新型コロナウイルス感染拡大に懸念を抱く人も多く、企業の設備投資や個人消費の足取りも重い状況が続くと思われる。	
	雇用	民間職業紹介業	業種毎の景気が不明であることから、変わらないと判断する。
雇用	公共職業安定所	窓口の聞きとりで、昨年の反動で少し良くなっているという回答があった企業もあるが、見通しはさほど良くないと回答が多数あった。	
	学校就業関係者	例年同様の求人数が見込まれる。	

やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの影響や、たばこをやめる人が増えていき、やや悪くなっていると判断する。
		家電販売店	今後さらに購買意欲が下がる状況が進むと思う。
		小売業（米穀）	卒業式、入学式、入社式等の祝事が皆無である。贈答、ギフトも激減している。
		和食食堂	緊急事態宣言が解除され、葬儀も含め集まり事の制限も少し緩くなるので、少しは良くなると思う。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	今後1年程度は感染状況が大きく変わらないと思う。
		製造業（窯業・土石製品）	コロナ禍の影響で公共工事は一時的に減少していくのではと考える。
		不動産業	まだ、新型コロナウイルスが収まっていないような気がする。
		不動産業	ワクチンが希望者全員に行き渡り、経済活動がコロナ禍以前のようにならなければ、景気回復は難しいのではないかと。
悪	家計	寿司店	緊急事態宣言の解除、時短解除をしても夜出かけなくなった生活が長く続いて、夜に食事が出てこない。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスによる影響がある。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスによる影響がある。
		理・美容店	店が潰れている。

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	家電販売店	3月に入ってからの来店客数が増加（100%以上）で推移している。
		タクシー運転手	都内も解除になれば、夜の駅からの乗り込みの人が増え、營收が上がり、飲酒を我慢していた人も飲みに出ると思うので、景気は良くなると思う。今年は半年。牛の如くタクシー業界も突き進んでいきましょう。
		レジャー施設	ここに来て、消費意欲の高まりと、外出する人の増加を感じている。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	ワクチンの普及で心理的に楽観的である。
		スーパー	全国的に緊急事態宣言が解除になってからのリバウンド発生の有無にかかっている。なしなら帰省客も増加と予想する。消費動向も上向きと期待できる。
		コンビニエンスストア	コロナ禍においては、緊急事態宣言の解除とワクチン接種が進むにつれ、外出者が増えるため、やや景気は回復傾向になると予測する。
		食堂	今現在がどん底で、ワクチン接種が始まり、新型コロナウイルスの収束が見えてくると思われる。
		旅行会社	ある程度我慢してきたので徐々に動き出す気がする。
		道の駅	一にも二にも新型コロナウイルス次第であるが、このままの状況が続けば徐々にではあるが良くなると思われる。
		設計事務所	周辺から聞こえてくる声では、今後少しずつ動き出し、見通しは明るいとのこと。
		設計事務所	依頼の引き合いが増えている。（受注とは別）
	企業	製造業（窯業・土石製品）	新型コロナウイルスでの制限等が徐々に緩和されていけば、回復が見込まれる。
		製造業（窯業・土石製品）	新型コロナウイルスの影響が小さくなる。
雇用	不動産業	人の動きが活発化してきた。	
	求人広告	直近が景気が悪いので底は脱した感がある。以前は予算削減の予定なども聞いていたが、現在聞く話としては採用拡大や設備投資費の増加など景気の良い話が増えてきている。	
	求人開拓員	新型コロナウイルス感染対策として年内のワクチン接種が見えてきているので、経済状況が改善していくと思われる。	
	変わらない	農産物直売所	急激な価格高騰は望めない。安値で推移すると考える。
メガネ・時計販売店		新型コロナウイルスの影響がまだ続くと考えられる。	
小売業（酒類）		感染者数の増減に合わせてそれなりの対応がとられるであろうと考えられるので、大きく良くなることもないであろうかと考える。	
レストラン		このコロナ禍の時期、終わりが見えないと客も飲食店に来ないと思う。客数の下げ止まりだと思う。	
和食レストラン		自粛が続いており、この状況はこの先もしばらく続くと思われ。	
都市型ホテル		新型コロナウイルスの影響がある。	
旅行代理店		状況が変わって、客が動いてくれることを願っている。この頃、燃料代が上がってきているが、乗らないので関係ないといったほうが正しい。	
タクシー会社		変わる要因が見当たらない。	
道の駅		必要最低限の消費のみで趣向品に回る金額は回復しない。	
ゴルフ場		予約状況により、変わらないと判断した。	
ゴルフ場		旅行が増えてくる反面、新型コロナウイルス感染拡大も予想される。景気自体は現状維持と予測している。	
理・美容店		最悪の状態から回復してきただけであって、まだ以前のように戻らないと思う。	
商店街代表者		新型コロナウイルスの流行やワクチンの接種がどの程度の層まで受けることができるかによるところが大きく左右されると考えられる。7月に入ると各地で夏祭り等の行事が行われるが、このような大きなイベントは消費の底上げにもなるが、去年は感染症防止のため大部分が中止となった。本年も自粛のために実施できないと景気の下振れが懸念される。	
企業		畜産関係者	特段変わらない。
		製造業（電気機械器具）	新型コロナウイルスの影響もあり、まだしばらくはこの状態が続くと思う。
		製造業（印刷・同関連業）	ワクチンの接種が進み、新型コロナウイルスの感染が減少し、経済活動が少し活性化する。
	製造業（化学工業）	電子材料の受注が好調である環境はしばらく続く。	
	製造業（金属製品）	継続して依頼の話がきている。	
	建設業	特に変化を感じない。	
	金融業	コロナ禍の状況であり、第4波も想定される中、景気回復は難しいと思われる。	
	サービス業（コンサルタント業）	変わらなければ良いほうではないだろうか。この新型コロナウイルスが落ち着くまではだめだと思う。	
雇用	人材派遣業	現在、依頼は多くなっているが、一時的なものである。	
	人材派遣業	新型コロナウイルスの影響やオリンピック需要が不透明な状況のため、様子見の企業が多い。	
	学校就業関係者	新型コロナウイルス感染予防対策のため、スムーズに高校訪問等の広報活動ができないと思われる。	
やや悪	家計	コンビニエンスストア	先がわからない。
	企業	製造業（非鉄金属）	半導体の影響が4月後半から出てくると予想される。
		製造業（窯業・土石製品）	残念だが、新型コロナウイルスの影響がこれからの大きなマイナス要因になることは避けられない。新型コロナウイルスが早く「収束」ではなく、「終息」しないと全ての業種に大なり小なりの悪影響が出ることを危惧している。
建設業	4月からの材料や燃料の値上げが予想されており、工事の受注の見通しも立っていない。		

悪くなっている	家計	商店街代表者	制服関連商品もなく、コロナ禍も不安で売上げは見込めない。限りなくゼロに近いと思う。
		スーパー	客数、来店頻度が減少傾向にあり、安価商品へのシフトが見られる。
		衣料品販売店	一般客の来店が期待できない。
		製茶販売	良くなる要素が見当たらない。買い控えや、皆がお金を使わないようにしているように思われる。これで景気が良くなるのだろうか。新型コロナウイルスのせいだけではないと思われる。
		タクシー運転手	夜の町は火が消えたようでだれも歩いていない。
		クリーニング店	色々なイベント等が中止になっているので、景気が良くなるとは思えない。
	企業	製造業（金属製品）	あまりにも先が見えない状況である。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	結婚式等がないため、必要性がなくなっている。
	商店街代表者	新型コロナウイルスによる外出自粛制限解除を受けて、当商店街周辺の駐車場が週末混み合う状態に戻ってきている。
	スーパー	店舗で割引企画などを打ち出しているが、どの割引とどの割引を組み合わせれば得なのかを客は考えて購入日を決めている。皆同様の考えで、同じタイミングに集中傾向が強くなっており、消費を少しでも減らそうということが見てとれる。
	スーパー	防災関係がやや売れている。
	スーパー	やはり、チラシ片手に来店する買物客が目立つ。価格に敏感になっている。
	酒・各種商品小売業	県の緊急事態宣言により時短に協力した飲食店に対して一日4万円の協力金がでて、普段から9時頃までのお店で昼間それなりの売上げを上げている店もあり、飲食店によっては緊急事態宣言が続いた方が良いと思っている店もあるようだ。
	コンビニエンスストア	コンビニエンスストアを利用する客が減った。
	衣料品販売店	わずかながら、上向きになりそうな感じがする。
	コンビニエンスストア	公共事業関係の客が増えて助かっている。
	小売業（弁当・惣菜店）	マスクや手指の消毒などかなり浸透したようである。人の流れは慎重ながらも回復傾向かと思われる。しかしながら、通年なら行われていたようなイベントは未だ開催されず、売上げにはかなり影響が出ている。食品関係者としてマスクの利用が進んだことは良いことだが、飲食時などの手洗いの励行を進めてほしいと思う。
	小売業（燃料）	ずっとだが遠出をしない。東京などの行き来がないので燃料の売上げが低調である。
	小売業（水産物）	他県からの客数が少し増加している。
	レストラン	早く新型コロナウイルスのない静かな日々が来れば景気も回復するような気がする。クリーンな未来を希望する。
	スナック	娯楽にはお金を使わず、大きなショッピングモール等には人が沢山集まっている。
	ラーメン店	周りも少しずつイベントが開かれるようになってきた。
	観光型ホテル	近隣施設では、安価なビジネスユース（作業員）の方々が見られるようだが、コストを考えるとなかなか受入れが難しいのが現状である。
	観光型ホテル	国、県の緊急事態宣言解除後も従業員に首都圏への移動自粛、不要な外出の自粛をお願いしている。いつまでこの対策を続けるのか、一部職員から不満も出ている。
	タクシー運転手	新型コロナウイルスにより、最悪よりは少しだけ改善する。
	タクシー運転手	工場従業員の残業者が少しある。
	タクシー運転手	やはり新型コロナウイルスの影響が大きい。
	レジャー施設	県北地区の新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にあると思われるが、その一方、県南・県西地区の感染者数がクラスター等の発生により増加傾向にあると感じている。ワクチンが完全な感染予防策とはならないが、早々に全県民を対象に接種できることを期待する。
	ゴルフ場	今まで、平日は年配者が9割以上だったが、ここ2～3か月、若年層の方々が増えてきている。
	ゴルフ場	3月25日の東京五輪聖火リレーで景気回復の兆し。コロナ禍の影響で健康意識が高まり、来場予約が期待できる。
写真店	コンビニエンスストア等で買出しをする人々が増えている。イベントが3月頃より少しずつ増えてきている。	
写真店	自営業は厳しい状況である。	
住宅販売会社	東海村に関してだが、原子力関連の施設安全対策工事にあたり工事関係者が多く、単身世帯のアパートが空き室なしの状況になり、今までの飽和状態から一転して活発化している。そのため、店舗関係は購買として上がっていると思う。	
企業	林業関係者	県内での林業関係（川上・川中・川下）との連携強化を進め、県産材利活用への強い動きがみられる。
	製造業（電気機械器具）	県独自の新型コロナウイルス対策に準じての対応で、現在も自粛中である。
	製造業（電気機械器具）	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、受注が減少しているものと思われる。
	製造業（電気機械器具）	主力な顧客情報では、2020年度は新型コロナウイルスの影響により、思うような営業活動ができず、2021年度の生産計画が全体的に落ち込む。
	製造業（一般機械器具）	建築関係の業者においては、ここ数か月の工事の日程確保が困難であり、非常に忙しいと聞いている。
	製造業（精密機器）	周りが仕事が増えてきたと言っている。
	製造業（精密機器）	車関係は大手企業を中心に動き始まったとの情報はあがるが、何が動いているかは不明である。悪い話が多くて、先行きが不透明な感じがする。
	金融業	長期化する新型コロナウイルスの影響から、今後の先行きについて不透明感を強めている取引先が増えている。
不動産業	建築業の中でも、リフォーム事業については、このコロナ禍で家の中に業者が入ることを嫌い、注文数が確実に減っている。一方、テレワーク・外出規制により、家での時間が増え、個人がDIYとしてできる物は伸びている様子。	
雇用	求人広告	従来では考えが及ばないような閉店、倒産、離職が散見され始めている。
	求人開拓員	水戸市内原地区在住だが、JR内原駅が新築中で、今後利用可能になれば、東西通路、駅前広場、大型ショッピングセンターへのアクセス等、非常に便利になると思い、完成を待ち望んでいる。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	新型コロナウイルスの影響で、業種によってはかなり落ち込んでいる様子が見受けられるが、あまり影響していない業種もあり、明暗が分かれていると感じる。
	小売業	夜の人通りが増えた。
	小売業	65歳以上（シニア・シルバー世代）の来店客数減少は継続しており、若年層に比べ回復基調は鈍い。
	小売業	都内に買物に行っていた客が、都内に行かずに地元で買物している。また、他県でも、ブランド品で欲しい物が近くにないと、都内に行かずに地方に行き買物している。都内を敬遠する動きが見られる。
	割烹料理店	テイクアウトの需要を取り込みたいが、Uber eatsのない田舎では厳しいので、支援があると助かる。
	スーパー	旅行やレジャーなどの規制により出かけられないことで、買物によるストレス発散（高額商品含む）が見受けられる。1月末まで、商工会発行のプレミアム商品券利用があり売上げ上昇の効果があった。当施設ではコロナ禍の中、食のセレクトショップがオープンし、期待をしている。
	農産物直売所	直売所に仕入れに来ている個人レストランのオーナーの人数が、2月末頃からさらに減少した。
	楽器販売	自宅で過ごすための楽器購入が増加している。これまでは10万円以下の鍵盤楽器は当社ではそれ程の動きはなかったが、11月頃から問合せが増え、受注も予想以上に頂いている。顧客の年代でみても大人の方の購入が多くなっている。大人の趣味層だと6~10万円近辺の価格帯がヒットするようである。多くの方がコロナ生活に順応してきて、自宅でどう楽しむかという考えが、当社などにも影響してきている印象を受けた。
	レストラン	借楽園のイベント参加のゲストが目立つようになった。
	割烹料理店	コロナ禍の中、建築業の客がかなり忙しいと言っていた。
	観光型ホテル	季節的に暖かくなり、外出が増えている感じがする。転職希望者が増えている気がする。
	観光型ホテル	週末や祝日で、那珂湊の魚市場や大洗へ行く車が、他県ナンバーも含め多くなり、多少の渋滞も見られるようになった。
	タクシー運転手	先日の地震でタクシー業界に特需が生まれている。
	タクシー会社	常連顧客の利用が増加傾向にあり、県内在住の顧客から県内観光の予約も少しずつ入ってきている。
	道の駅	免疫を高める食材や薬などが好調に売れていると思う。増々健康志向の時代になる。また、法事や会食、飲み会などは質素なままの時代になると思う。余暇は自然が多い所で過ごす方が増えると思う。
ペット美容室	住宅関係や車、家電製品などの仕事は忙しそうである。	
設計事務所	外出する用事がなくなり、家と会社の往復であったが、緊急事態宣言の解除により、外へ出るスケジュールが増え始めている。	
設計事務所	地元の設計業者の多くが、このところの仕事量の減少を言っている。	
企業	製造業（食料品）	相変わらず有効求人倍率が高い状況もあり、求人に対する応募がない。
	製造業（印刷・同関連業）	早めの景気・経済対策が重要となる。
	製造業（印刷・同関連業）	緊急事態宣言が解除されても、感染者の下げ止まりが続いており、どのようにすれば良いのか不安であり、景気が回復するのとも感じられない。
	製造業（一般機械器具）	建設機械、工作機械の受注量増加のニュースはあるが、社内の仕事量は上がっていない。
	製造業（精密機械器具）	大手企業のM&A戦略が子会社にも波及し、子会社事業部の製品利益率がレベルに達しないものは手放そうという動きが出ている。やり方次第では大きなビジネスチャンスと言える。
	建設業	身の周りを支える業種は景気の維持が見込まれる。
	運輸業（道路貨物運送業）	軽油など燃料費が値上がり傾向になっている。
	金融業	飲食業・ホテル業に関しては未だ新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、休業・廃業が後を絶たない。3月から、借楽園の梅まつりが開催中で、「光とのコラボ」がロコミや新聞掲載により集客増となっている。
	不動産業	テナント解約が散見されたが、徐々に落ち着いてきており、コロナ前に戻ってきている印象。
工務店	昨年続き、イベント、祭典などの中止、延期が続いているため、人、物、金の動きが鈍いと感じる。	
サービス業（コンサルタント業）	飲食、ホテル系の新築が全くない。	
雇用	公共職業安定所	令和2年12月1日現在において、400社を対象に業況調査を行い、229社から回答があった。企業の先行き3か月の見込みでは、229社の56%が先行き3か月の業況は、やや不振・不振との回答であった。業況に影響を与える要因（複数回答可）は、新型コロナウイルスの影響が190社、人手不足（採用困難等）が79社と上位を占めている。
	求人开拓員	2月23日の県独自の緊急事態宣言の解除もあり、休日の人出も戻りつつあるように見受けられる。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	市のプレミアム付きクーポン事業も販売及び換金も終了した。コロナ禍の中、このクーポン事業について消費喚起により加盟店への売上げに少しでも貢献ができたのではと考える。しかし、ワクチン接種の遅れにより、まだまだ平穏な日常に戻るのには時間が掛かると思う。
	スーパー	県外資本のドラッグストア・スーパーマーケットの出店が増加しているため、競争環境が厳しくなっている。
	コンビニエンスストア	付近の飲食店などは、まだまだ客数が少ないようだ。
	衣料品販売店	時短要請で飲食店に協力金。どの業種も厳しいのに不公平さを感じる。周りの会社の社長、店主と話しても不満の声はとて多い。
	家電販売店	隣接企業の状況により影響を受けることがあり、今後の展望についてあまり良い話は出ていない。
	農産物直売所	皆財布の紐が固くなった。
	小売業（菓子類）	以前より人の動きが活発になっていると思う。
	小売業（薬品店）	飲食店など、営業時間が戻っても増えないように感じる。
	小売業（食品）	北浦の組合員に聞いたところ、あまり良い返事がない。
	和食レストラン	昼間の人の動きは出てきているが、夜間の動きは鈍い。
	洋食食堂	この一年間は、テイクアウトの占める割合が大幅に増えた。アルバイトスタッフが卒業、進学で離職していくが、次のスタッフの確保に四苦八苦している。
	日本料理店	感染予防をしながら来店する方が増えたので少しは景気が戻りそうである。
	海鮮料理店	時短営業が解除されても、夜の予約が入らない。当店は鮮度の良い物を仕入れている。特別安いものではない。今では、人件費をカットし、家族経営でも毎月大変である。
	運転代行	特徴的な動きは見られない。一日も早く景気が良くなることを願っている。
タクシー運転手	日本製鉄の高炉2基のうち1基を2025年に休止するという発表があったとニュースで知り、相当の影響があるのではないかと考えた。復活に期待したい。	
理・美容店	洋服でもそうだが、安い物で間に合わせている。	
クリーニング店	若者達は副業としてインターネット（株、オークション、通販等）で仕事をしている。また、Uターンしている人もいる。	
企業	農業関係者	小学校などで外での友達との遊びが禁止されているなか、近くの公園で家族連れの子供が遊んでいる光景が増えてきている。今後も、このように身近な生活が戻ってくれば、景気も上向いてくるのではないかと希望も含めて思われてくる。
	製造業（化学工業）	茨城県独自の緊急事態宣言の発表があったが、宣言前から飲食を控える状況が続いている。
	製造業（食料品）	飲食店の廃業やホテル等の休業が続いており、当地区の特徴でもあるスポーツ民宿へのキャンセルが多発していることから、ワクチン接種による新型コロナウイルス感染者数の減少次第ではないか。
	製造業（電気機械器具）	飲食関連は本当にかわいそうなほど酷い。緊急事態宣言が解かれても、客足は戻っていない。
	製造業（金属製品）	日本をはじめ、全世界の経済活動は常に右肩上がりで良くなると思われたが、新型コロナウイルスの出現によって、新しい生活スタイルをリバイバルしなければならないと思う。
	運輸業（道路貨物運送業）	日本製鉄の高炉を1基休止というニュースは、大変地元で話題となっている。
	金融業	店頭来店者数も増加傾向にあり、ウィズコロナも定着してきていると感じる。しかし、現在の地域一番の話題は日本製鉄の鹿島高炉（1基）休止を不安視する意見が多い。
	保険業	県内の大手金融機関で株価が1年で約6割上昇しているものがあり、県内の多くの方の資産価値が少し上がってきていると感じる。
	不動産業	茨城県独自の緊急事態宣言発表で飲食、居酒屋等に1日4万円の協力金が出て、皆大変喜んでた。
	不動産業	やはりなんといっても現在は新型コロナウイルスの状況が一番大きな要因である。一年以上経過したので、人類の英知が段々実ると信じる。
サービス業	Webセミナー等、インターネットによる経済活動が従来に比べて活発化してきていると感じる。新型コロナウイルス後への準備を各業界が模索しているようであり、人の動きに対する制限が緩和されるに従って景気は上向くのではないかとこの気配を感じる。	
雇用	人材派遣業	日本製鉄の規模縮小の影響により、地域経済の縮小が予想される。
	民間職業紹介業	企業からの増員依頼、受注が増えてきているが、求職者の動きが非常に鈍い。特に男性の求職者が少ない状況である。
	公共職業安定所	日本製鉄東日本製鉄所鹿島地区の動向により、大きく変動する可能性があると思われる。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	スーパー	昨年の今頃からコロナ特需があったが、今年は静かである。
	スーパー	この状況で競合店の出店があった。セールに対しての購買意欲は旺盛のようである。
	コンビニエンスストア	サラリーマン、農業経営者、個人事業主の収入が大きく減少していると思う。これらによって、来店客数は減少し、客単価は少し増加しているものの、前々年、前年から見ると売上げ、収益とも減少している。
	小売業	茨城県独自の緊急事態宣言の2月22日の解除後、飲食レストラン業種の夜の集客も少しずつ回復傾向にある。
	小売業(生花店)	住宅リフォーム会社の社屋竣工や店舗の開店が急に増えた。経営者が若い。
	衣料品販売店	新型コロナウイルスで出かけないので、衣料品はあまり求められていないのではないかと。
	小売業(米穀)	テレワークやオンライン会議をやるようになり、セミナーもオンラインが増えた。コロナ終息後はどうなるのか。元に戻るのか、戻らないのか。減少するマーケットも出てくるだろう。
	和食食堂	新型コロナウイルスの影響もあり、葬儀自体の規模もかなり縮小傾向にある。
	和食食堂	2月23日に県の緊急事態宣言が解除となり、営業時間がもとに戻った。
	日本料理店	多少、外食が動いているかと思われる。
	都市型ホテル	周辺の店舗の閉鎖や業態変更など、依然厳しい状況が続いている。もちろん企業により前年比を大きく上回る業種もある。ホテルとエージェントが一番厳しいと思われる業種で、新年度から経費削減で給与の数%カットやリストラも聞こえてくる。雇用の確保が一番となり、企業存続のため、乾いた雑巾をも絞り出すような努力も見えた。
	都市型ホテル	レストランにおいて、お昼の利用は増加している。団体の利用も未だ少ないがある。しかし、ディナータイムは客足が遠のき厳しい状況。近隣の飲食店からも同様の意見を聞いている。県独自の緊急事態宣言が明けてから、今後この業態の先行きが不安である。
	都市型ホテル	コンビニのレジが完全非接触型の最新機になった。
	タクシー運転手	駅周辺の商業施設近辺の車通り及び人通りはおそらくコロナ禍前と変わらない印象を受ける。駅前の飲食店は依然として客入りは芳しくないが、体感で3割くらいは増えているのではないかとと思う。
	タクシー会社	飲食店やスーパーでの混み具合に特徴的な動きがある。回転寿司やファミリーレストランでも1時間待ちなどがある。
	サービスエリア	遠出に抵抗のある近隣に住まわれている方が少し足をのぼすのにちょうど良いのか、エリアの裏手、一般道から立寄り、ドッグラン等を利用する客が増えている。
	ゴルフ場	売店やレストランの土産品は以前より売上げが上がったが、プレー後のレストラン利用、パーティはまだとても少ない。
テーマパーク職員	コロナ禍で様々なサービスや割引が増えている。PayPayなどのキャッシュレスでの割引やポイント還元など、当施設のような単価が高いものに対し、キャンペーン期間に利用しておこうという客や消費者は多いように感じる。世の中の傾向としてポイント還元、キャッシュレスが普及し、市町村や都道府県レベルでのこういったサービス、キャンペーン時の景気の動きは大きくなるように感じる。	
理・美容店	景気とは別かもしれないが、客のストレスがだいぶ溜まっているように思う。酒を飲みに行ったり、食事や旅行に行ったりしたいらしい。それ自体が景気に関わってくるのだろう。	
企業	製造業(窯業・土石製品)	日中の人の流れは戻ってきたと感じているが、夜の飲食関係はまだ警戒が強く、人が戻ってきていない。
	製造業(非鉄金属)	求人に対する応募者が増加傾向である。
	建設業	この頃、役所から小さい道路関係工事がたくさんくるようになった。年度末のせいかもしれないが、住民からの苦情だという。コロナ禍で在宅が多くなったせいか、細かいところまで気にするようになったのだろうか。当社としては工事量が増えてありがたいのだが、対応に当たっている役所担当課の職員がかわいそうに見えて仕方ない。
	不動産業	新型コロナウイルスの関係で多くの人が行動を控えているように感じる。
	金融業	全国で多数の店舗が運営されているあるファミリーレストランが、土浦市内でかつて5店舗あったが、2店舗が閉店し、現在は3店舗である。特に、その1号店である中貫店が昨年閉店になったことは、地元住民にとっては非常に寂しいとの声が多数ある。
雇用	求人広告	焼肉店が忙しいと各方面で聞く。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	飲食以外の個人経営の店舗が非常に苦しい。持続化給付金の第2弾を期待する。
	商店街代表者	GoToトラベルがなくても旅行するという中年女性客の声を2~3人から聞いた。
	コンビニエンスストア	コロナ禍においてもPayPayなどのキャンペーン等が開催されると一時的に消費が促進されていると感じる。
	家電販売店	今まで動きが目立っていなかったような一合炊きの炊飯器やキーボード、超小型トースターなどが売れており、先のニーズが予想しにくい状況である。
	農産物直売所	新型コロナウイルス感染状況の若干の緩和により、他県ナンバーの客が目につく。
	小売業(酒類)	個人の客に支えられて生かされていることを実感する。
	製茶販売	皆この先のことを考え手元に金を残そうと使わないようにしていると思う。新型コロナウイルスのせいだけだろうか。オリンピックが開催されないかもしれないからだろうか。ワクチンが接種されたら景気は戻るのだろうか。
	レストラン	同業者でも、会えば皆一様に「本当に客が来なくて困った」と言っている。新型コロナウイルスの状況が改善されない限り、景気は良くならないと思う。
	食堂	とにかく、皆外出を控えてしまっている。
	旅行代理店	三密にならない場所を計画してチラシを配布しても無駄だった。数回実施したが、一度も出発できなかった。今後も、自然の山や海などあきらめずにチラシを作って楽しい所へ案内しようと計画する。世界一のパワースポットへ行こうとか、明るく実行できればという思いで作成したい。
	タクシー運転手	今回の緊急事態宣言で飲食店が1月中旬から2月末まで休業。毎日迎えに行っていた店が午後8時以降全店休業。手足、さらに羽根までもがれる気分になり、こういう経験はタクシー業45年目で初めてである。新型コロナウイルスを今更恨んでも始まらないが、収束を願う。
	タクシー運転手	混雑しているのは食料品の店のみとのことである。
	道の駅	昨年の秋以降全くなかった大型バス(有人)の立ち入りが、3月に入り見かけるようになった。徐々にではあるが、人の動きが出てきたものと思われる。
	ゴルフ場	人出や交通量は明らかに増えている。ゴルフに関しては、個人スポーツなので、コロナ禍の外出としては安全という認識をされているのか、景気自体は悪くない。
企業	商店街代表者	緊急事態宣言が都市部を除いて解除されている。そのため、春以降は一時的に良くなると見込めるが、新型コロナウイルスを収束させるためにはまだまだ時間がかかりそうである。当面は景気は新型コロナウイルスの感染者数に左右されそうである。
	設計事務所	景気が良くなるとの楽観または願望からか、そのように感じる。また、そのような感覚を持っている方が少なからずいる。
	製造業(窯業・土石製品)	雇用調整助成金の申請について、ハローワーク担当者によると、11月が最も減少していたが、12月から申請が増え始めているとのこと。
企業	製造業(窯業・土石製品)	まだ先行きに不安を持つ人が多い。
	製造業(窯業・土石製品)	勝ち組と負け組が全ての業界であるが、自分のことだけを考える業者が勝ち組で、客のためにと自分のことは二の次で活動している会社が負け組となっているのもまた現実である。
	製造業(金属製品)	コロナ禍に便乗するようなコストダウンの要請をされている感がある。
	建設業	民間の工事の受注も少なく、設備投資を控えているように感じる。
	金融業	若年層の利用の多いラーメン店等の売上げは徐々に回復しているが、割烹店などは依然厳しい状況である。
	不動産業	新型コロナウイルスの影響か、1月、2月と賃貸の解約が例年に比べ3分の1程度だったが、3月の解約は1.5倍である。
	サービス業(コンサルタント業)	緊急事態宣言に伴い街が暗く、それだけ人出も少なくなっているように感じる。
雇用	求人広告	飲食店の空きテナントが増えた。地域によっては、このままシャッター街にならないか不安な地域もある。
	人材派遣業	引き続き日用品を扱う小売、卸売、物流企業の採用が活発である。自動車メーカーの増産を受けて、関連会社で採用が見込まれる。
	学校就業関係者	コロナ禍で家族の収入が激減した。
	求人开拓員	一昨年の新型コロナウイルス以前の求人状況が回復してきているように感じられる。